THE ULTIMATE GRAPHIC DISPLAY RADIO CONTROL SYSTEM
FOR SURFACE BASED MODELLERS

SPCM

10 MODEL 3 CHANNEL TRANSMITTER
S·Z PCM/PPM SELECTABLE

R-1.

取扱説明書

■保証書
■修理カード在中

JR PROPO®

SYSTEM TRF, EPF/FM
SYSTEM TRS, GPS/SPCM

お買い上げいただきましてありがとうございます。

フロポは非常に精密な機器であるにもかかわらず、振動を始め過酷な条件で使用されることが多いので、安全第一のためにも、ご使用になる前、充分この説明書をお読みいただき万全を期していただくようお願いいたします。
特に安全のための一般的な注意は必ず確認し、実行して下さい。

INDEX

1 安全のための一般的な注意 ……1
2 特長 ……2
3 セット構成と規格 ……2
4 送信機について ……3
5 接続及び搭載について ……6
6 キー入力及びキー表示，デジタルトリム ……8
7 アラーム及びエラー表示 ……9
8 入力モード及び機能一覧 ……10
9 各機能の使用方法 ……15
[1] デュアルレート、エクスポネンシャル ……15
[2] サブトリム ……16
[3] 左右舵角調整 ……16
[4] スロットルホールド ……17
[5] スロットルカーブ ……18
[6] スピード調整 ……20
[7] アドバンスドブレーキシステム ……21
[8] アイドルアップ ……23
[9] クィックスロットル ……23
[10] タイマー設定 ……24
[11] モデル切換、コピー ……27
[12] ポジション表示 ……28
[13] リバーススイッチ ……29
[14] ファンクションセレクト ……30
[15] トリムレート ……31
[16] モデルネーム入力 ……31
[17] データリセット ……32
[18] モジュレーション切換 ……32
[19] フェイルセーフ ……33
[20] 送信機間モデル転送 ……35
[21] プログラムミキシング1～2 ……38
[22] 送信機モード ……40
L.S.T(リミット・ストローク・トリム)による動作 ……40
データシート ……41
10 修理アフターサービスについて ……42
保証書・修理依頼カード ……43、44

(1997年11月)

1 安全のため一般的な注意 必ずお守り下さい

■本プロポセットについて

本製品の改造や、純正部品以外の使用、天災、及び、この項目に書かれている注意事項を守らなかった場合の事故、故障等については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。また、事故、故障における損害等については、本製品、及び弊社純正製品以外のもの（車体、他社製品、燃料等）は、保証の対象外とさせて頂きますので、ご了承下さい。

本製品で使用する電波は以下の場所、方法での使用が電波法で決められています。

「壁で囲まれた建物の内部において、又は建築物から500メートル以上離れた場所」

「郵政大臣の免許を受けないで、ラジコン模型用に割り当てられない電波を発射してはならない」

「免許を要しない無線局が、郵政省による検査を忌避してはならない」

以上のことに違反した場合、電波法違反となり罰則が適用されることもあります。

●本製品を海外で使用する場合、使用する国の法令で許可されている必要があります。

●海外において模型以外の目的で使用する場合、輸出貿易管理令で規制の対象となる場合があります。この場合、同法に基づく輸出許可が必要です。

本説明書の中の下記の表示は、取り扱いの誤りに依って発生する可能性のある危険に関する注意事項です。安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。

⚠

文頭表示の意味　⃠：禁止行為　○：義務行為

■取り扱いについて

御使用になる前に、製品のパーツが揃っているか、また、受信機にスイッチハーネス、サーボ、送受信機に電池を接続し、送受信機の電源スイッチを入れ安定に動作するかをご確認下さい。もし動作しない場合は、電池を点検して下さい。また、ニッカド電池は、お買い上げ後、初めての使用や、長期間使用しなかった場合、充電器で必ず充電してから、御使用下さい。

もし、パーツに、欠品、また動作不良等がありましたら、お手数では御座いますが弊社サービス課まで、ご連絡下さい。安全に御使い頂くために次のことを、必ずお守り下さい。

⚠危険

⃠操縦不能となり危険です。
- 同一バンド（周波数）との同時走行は絶対にしないで下さい。また、変調方式（SPCM、ZPCM、PPM、AM、FM）が違うか、他社製品である場合でも同一バンド（周波数）との同時走行は絶対にしないで下さい。
- 雨の日の走行は送受信機内部に水が入り誤動作の原因となりますので、おやめ下さい。止むを得ず御使用になる場合は、防水対策を完全に行って下さい。

⃠発熱、発火、感電、怪我をすることがあります。
分解したり、改造したりしないで下さい。

○不意にエンジンやモーター（電動模型の場合）が高回転となり危険です。電源スイッチをオンにする時は、送信機のスロットルトリガーを最スロー（エンジン、モーターの回転が高回転とならない位置）にし、送信機の電源スイッチ、次に受信機の電源スイッチの順に、オンにして下さい。また、電源をオフにする時は逆に受信機、送信機の順にオフにして下さい。

○怪我をすることがあります。
エンジン（モーター）調整は必ず後ろから動作中の動力に細心の注意をはらって行うようにして下さい。

⃠送信機のスロットルハイでエンジンをかけることは、危険ですので、おやめ下さい。

⚠警告

⃠故障の原因となります。
- 本プロポセットと、他社製品（交換用クリスタル、サーボジャイロ等）を、組み合わせて使用しないで下さい。
- 送信機用、受信機用の電池ケースは乾電池専用です。乾電池以外の電池を使用しないで下さい。

⃠誤動作の原因となります。
送信機背面のTXモジュール、及び受信機に組み込まれている交換用クリスタルに、強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないで下さい。

⃠後に、操縦不能となる可能性が有り危険です。
走行中、サーボの動きが鈍いと感じたらすぐ中止して、バッテリー残量、サーボ等の点検を行って下さい。

○操縦可能距離が短くなり危険です。
アンテナは、ねじ込み式です。接触不良が起こらないよう確実に奥までねじ込んで下さい。さらに、全て伸ばした状態で、御使用下さい。また、アンテナは先端の方が出力が低いため走行中、出来るだけ車体の方向にむけないようにして下さい。

⃠以下の場所での走行は操縦不能や事故の可能性があり危険ですので、おやめ下さい。
- トランシーバー妨害のある時。
- 車やオートバイの走っている付近の通過。
- 高圧線・ビル・土手の近く、山間部等。
- FMや放送局、船舶無線等の無線の送信所の近く。
- 民家や建造物付近、及び人の近く。

⃠突然、誤動作を起こす可能性が有り危険です。
受信機、サーボ等が水没し完全に乾燥後、正常に動作する場合や、サーボの調子が悪くなり、あとで正常な状態に復帰した場合でも、そのまま使用せず、弊社へ点検依頼をして下さい。

⚠注意

○走行前に安全のために次のような点検を行って下さい。
- 送受信機のバッテリー残量（ニッカド電池の場合、満充電）はあるか。
- 燃料タンクの燃料漏れにより受信機やサーボ等に燃料がかかっていないか。また、燃料は入っているか。
- 送信機、受信機のスイッチを入れ、送信機のアンテナを一杯縮めて10m位は完全に届いているかどうか。
- 車体の振動ノイズの原因となる、ロッド棒が車体や胴体に当たったりしていないか、さらに、車体を固定した状態でエンジン（モーター）をハイにして、各舵を動かし完全に動作するかを確認して振動テストを行って下さい。
- 初走行は速度を上げず、距離を離さず、安全な地域を選び付近を50m程の距離で走行練習の程度にし、約5分間、2～3回テストして異常の無いことを確認してから操縦を行って下さい。

○万が一に備え、「ラジコン保険」の加入をおすすめします。

■ニッカド電池、及び、充電器について

漏液、破裂、発熱の恐れがありますので、次の事をお守り下さい。

⚠危険

○充電器は日本国内AC100Vのコンセントでのみ御使用ください。
⊘充電は必ずJR専用充電器を使用し、急速充電は行わないで下さい。
⊘(+)と(−)を逆にしての使用や、充電をしないで下さい。
⊘火の中に投下したり、加熱しないで下さい。
⊘(+)と(−)を針金等の金属で接続しないで下さい。
⊘分解、改造、半田付け等をしないで下さい。
○電池内部の液が目に入った時は、失明の恐れがありますので、こすらずに、きれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けて下さい。

⚠警告

○故障の原因となります。
ニッカド電池は、JR純正ニッカド電池を御使用ください。
○所定の充電時間を超えた場合には、充電を止めて下さい。
⊘水や海水につけたり濡らさないで下さい。
⊘外装チューブ、リード線や、コネクターにキズをつけたり、はがしたりしないで下さい。
○漏液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、直ちにきれいな水で洗い流して下さい。
○操縦不能の原因になります。
ニッカド電池のパックは、数本のニッカド電池の組み合わせにより構成されています。よってバッテリーチェッカー等で、確認を行い、パック内のニッカド電池が、全て正常であることを確認下さい。また、ニッカド電池の残量をバッテリーチェッカー等のテスターで正確に知ることは出来ません。バッテリーチェッカーと、充電時間、使用時間等で総合的に判断して下さい。

⚠注意

⊘高温、多湿、ほこりの多いところには保管しないで下さい。
○幼児の手の届かないところに保管して下さい。
⊘冷えたまま（0℃以下）で充電しないで下さい。
⊘古くなった電池をゴミ箱等にすてないで下さい

2 特長

1 送信機 NET-V300RS COMPUTER

- 多機能な3チャンネル送信機です。
- 大きく見やすいグラフィック液晶ディスプレイによって理解しやすく、多機能なコンピュータ方式です。
- 新開発の内部32ビットワンチップマイコンを採用しています。
- すぐれたホールド感を追求したニュー3Dシェイプは、抜群のフィット感と操作性を示します。
- クリスタル交換式です。
- 10台分のすべての設定をメモリー出来ます。
- 車用・船用として利用することが出来、10台分のメモリーを、それぞれ用途別にすることも可能です。
- PCM使用時は、フェイルセーフ機能が使えます。
- DSC、充電ジャックを装備しています。
- 各種タイマーを装備しています。
- モデルネーム・コピー機能を装備しています。
- スロットルカーブは、新曲線カーブ採用により8ポイントアジャスト方式でも、より滑らかなカーブ設定が可能となりました。
- 多機能なプログラムミキシング2系統を装備しています。
- トリム動作は各チャンネルの最大舵角に影響しない処理を行なっており、一定した 最大動作角が得られます。
[L.S.T.：リミットストロークトリム] （P40参照）

2 受信機 R200 PPM・R330S SPCM

- FM−NEW ABC＆W方式により、混変調、相互変調妨害を受けない高感度受信機です。
- 超ナローバンド方式を採用。隣接妨害を受けません。
- ダイレクトサーボコントロール装置（D.S.C）により、電波を出さずに、各サーボをコントロール出来ます。
- CPU搭載により、フェイルセーフ機能が使用出来、より安全な走行が可能です。（R330Sのみ）

3 セットの構成と規格

■送信機■

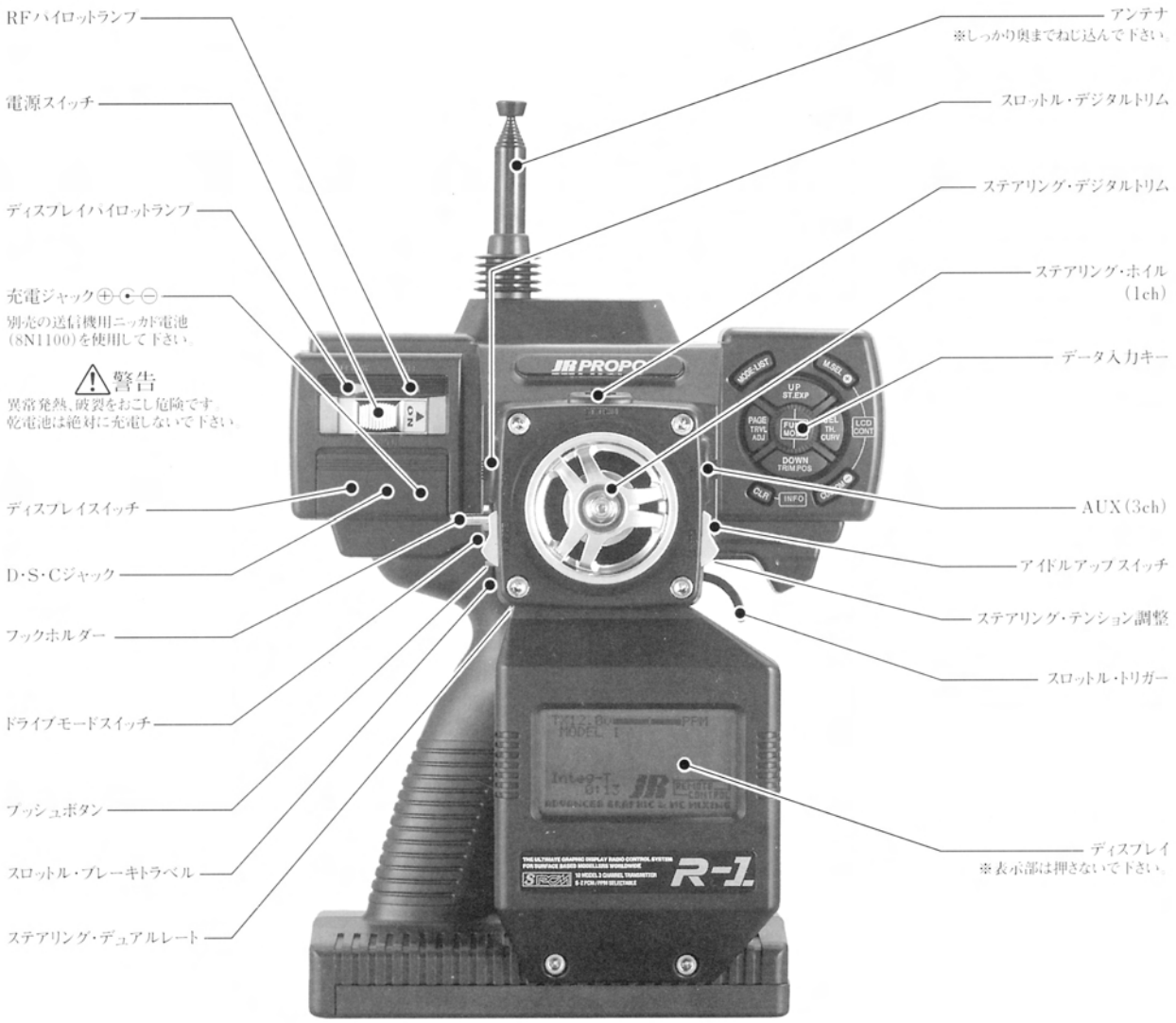
品番	NET−V300RS
操作方式	3チャンネル コンピューターミキシングシステム
送信周波数	40MHz 8バンド または27MHz 12バンド
変調方式	PCM・PPM（FM）
終段入力電力	約1W
電源	乾電池またはニッカド電池（別売）
消費電力	200mA（D・S・C時50mA）
ニュートラル	1.5ms

■受信機■

品番	R200	R330S
受信方式	FM2チャンネル シングルコンバージョン NEW ABC＆W方式 PPM	FM3チャンネル シングルコンバージョン NEW ABC＆W方式 SPCM
受信周波数	40MHz 8バンド または27MHz 12バンド	
感度	5μV/m（完動時）	
選択度	8KHz/50dB	
重量	19g	21g
寸法	17×26×37mm	17×29×38mm

4 送信機について

（1） 各部の名称及び機能



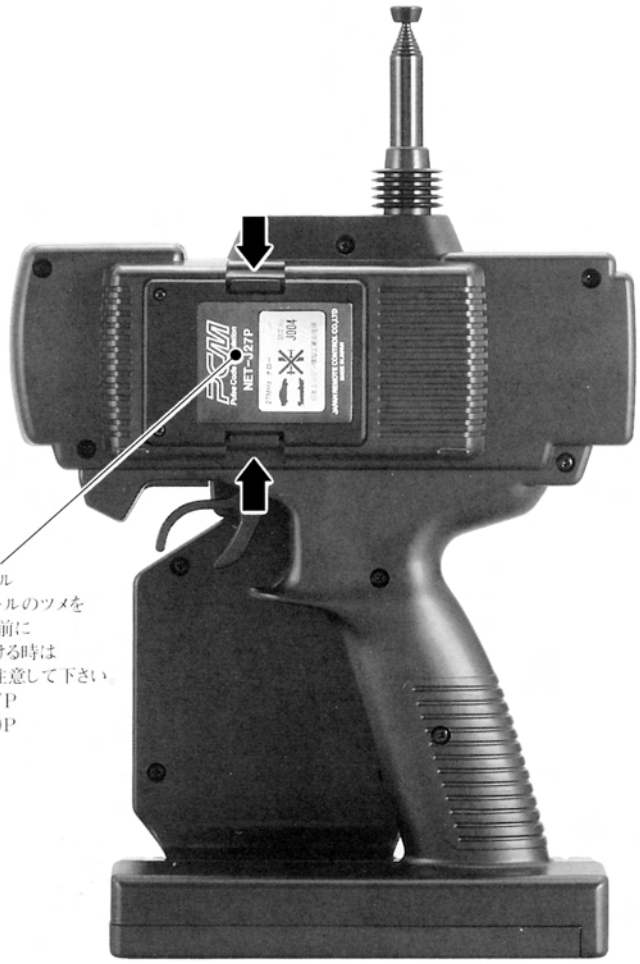
ディスプレイスイッチ

電源スイッチを入れずに、このスイッチを入れることで、電波を出さずに送信機の各設定を行うことができます。

⚠警告

この状態で、後から電源スイッチを入れた場合も電波が出ます。他の同一バンドの妨害とならないよう注意して下さい。

（２）裏面各部の名称及び機能



TXモジュール
図のようにTXモジュールのツメを
内側に押さえながら手前に
引き出します。取り付ける時は
ピンを曲げないように注意して下さい。
27MHz…NET－J27P
40MHz…NET－J40P

電池カバー

電池交換時、押してスライドさせて開きます。
電池ケースは、単三乾電池を８本入れて下さい。
方向は、うず巻のバネの出ている方が乾電池の⊖側になるように入れて下さい。
電池ケースは、左右どちらかの端を内側に引いてはずします。
電池が入っている場合、左右端どちらかの電池を１本はずしてから、ケースの端を引いて下さい。

ニッカド電池

別売の送信機用ニカッド電池（８Ｎ１１００）を御使用の場合、ニカッド電池の袋に同梱のコの字型スペーサーを送信機側にはめ込んで御使用下さい。

⚠ 注意

電池ケースは乾電池専用です。バラのニカッド電池等を入れないで下さい。またアルカリ電池のご使用を、おすすめします

■フックホルダー

長時間の走行など、ベルトを首にかけて操縦することが出来ます。

■D・S・C(ダイレクトサーボコントローラー)

電波を出さず走行前に有線で各舵のチェックができるD・S・C装置が内蔵されています。D・S・Cコードをもちいて下図のように接続します。(SW充電コネクターを使用します) この時、送信機のパワーSWはOFFで、受信機側の電源はONとします。

送信機のジャックに差し込みますと、自動的に送信機のエンコーダー部がONとなり、ディスプレイが表示されます。(電波は出ません) この状態で、すべてのサーボを直接送信機からコントロールできます。

これを使用する時は、別売のD・S・CコードAL及びYハーネスSSが必要です。

■ステアリング・テンション調整

精密ドライバー等の細いプラスドライバーで穴の中のビスを回して調整します。

右 (時計方向) に回すとテンションが強くなります。

■PCMに関する注意

この送信機は、SPCM・ZPCM・PPMの3種類の変調方式が選択できますが受信機は各々の方式のものが必要となります。

⚠注意

AM方式を含めて、同一バンドとの同時走行は絶対に出来ません。

PCM方式は普通のFM方式 (PPM) の様に、ガチャツクノーコンでは無く、操作出来ないノーコンになりますので、ノーコン発見が遅れ、手遅れとなる場合が考えられますので、安全のためフェイルセーフの使用をお勧めします。SタイプPCMを使用する時は、SPCM受信機PPMを使用する時は、FM受信機を使用して下さい。

■ラジコン専用電波使用区分

40MHz用送信機は下記の8周波数、27MHz用送信機は下記の12周波数に限り、クリスタル交換によるバンド変更が出来ます。

⚠注意

なお、40MHz帯用クリスタルは、27MHz用送信機には使用出来ません、また、その逆も出来ませんので、ご注意下さい

27MHz

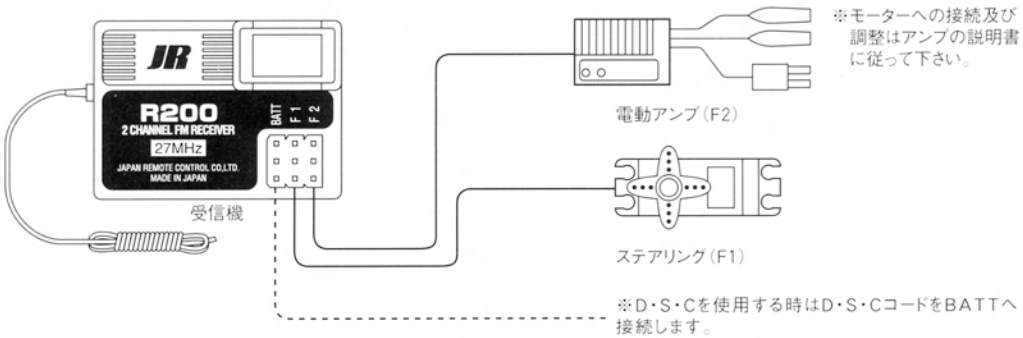
ナローバンド		周波数(MHz)	旧バンド
01	地上用及び水上用27MHz	26.975	
02		26.995	①
03		27.025	
04		27.045	②
05		27.075	
06		27.095	③
07		27.125	
08		27.145	④
09		27.175	
10		27.195	⑤
11		27.225	
12		27.255	⑥

40MHz

バンド		周波数(MHz)
61	地上用及び水上用40MHz	40.610
63		40.630
65		40.650
67		40.670
69		40.690
71		40.710
73		40.730
75		40.750

5 接続及び搭載について

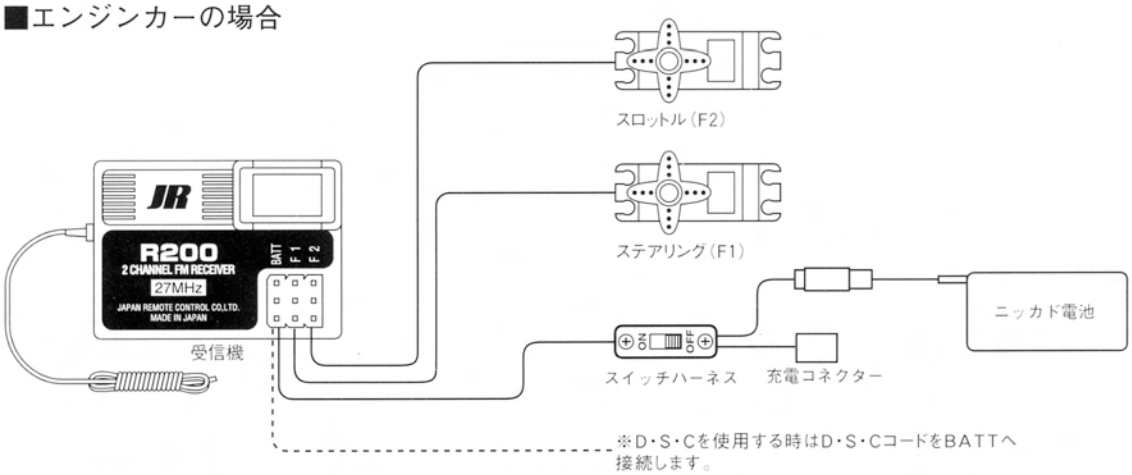
■電動カー（アンプ仕様）の場合



※電動カーについての注意

- 高周波アンプの場合、アンプ自体もノイズを出しますが、モーターにノイズが多いと増幅されますので必ずモーターには指定のノイズキラーコンデサーを３ヶ所付けて下さい。
- アンテナはアンテナパイプに導く途中、金属シャーシやカーボンプレートに密着させてはいけません。必ず１０ｍｍ以上はなして下さい。
- モーターコードやＮｉ－ｃｄのコードとアンテナはたばねたり、交錯してはいけません。なるべくはなして下さい。電流の多く流れる線はそれだけノイズも多いと考えて下さい。

■エンジンカーの場合



※エンジンカーについての注意

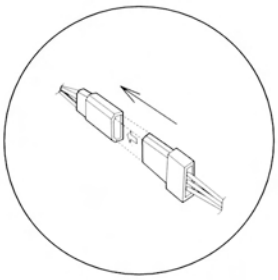
- 初走行後に必ずサーボを外して、ケースの横や下面にメカプレートやシャーシと接触した傷跡がないかよくチェックして下さい。接触したままだとすぐに寿命がきます
- アンテナは受信機のところから必ず立てて下さい。金属シャーシやカーボンプレートに密着させるのは感度低下をまねくので絶対にやめて下さい。
- サーボのギヤー交換時、必ず全ての破片をとりのぞいて下さい。異物（砂など）が残っているとギヤーにはさまり再びギヤー欠けを起こします。
- 受信機側のクリスタルはクラッシュ等で周波数ズレを起こす事があります、劣化していきますので定期的に交換をおすす召します。
- スイッチもメカプレートに直接取り付けることが多いので振動で早く劣化します。早めの交換がよいでしょう。
- 受信機やサーボに排気がかかると内部のオイルが入りリークの原因になりますので搭載方向注意しましょう

■搭載について

- サーボのリンケージが終わったら、相互に当ったり、車体に接触したりせずスムーズにサーボが動くことを確認して下さい。
- このプロポは搭載時に多くの中継コネクター等を使用する場合もあります。この時、コネクターもラバー等に包んで固定するようにしましょう。絶対にプラプラさせたままにしない様にして下さい。
- スイッチハーネスを車体に取り付ける時、スイッチのストロークが完全に動く様に充分注意して下さい。
- サーボはアブソーバゴムを耳の部分にはめ込み、その後でビス止めして下さい。
- サーボのニュートラルの調整は出力軸のスプラインを利用して行います。この時、ホーンを十字型や丸型は90°ずつ、また一文字型は180°ずつずらして入れて見て下さい。丁度、合う所が見つかります。

⚠ 注意

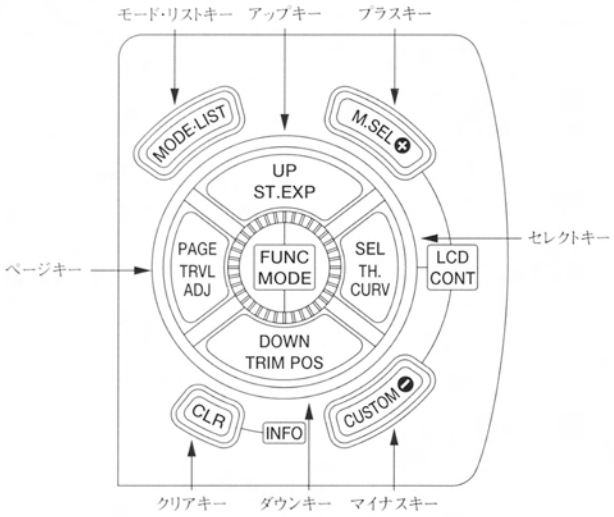
サーボのギヤやモーターへの注油、防水スプレー等の使用は絶対しないで下さい。



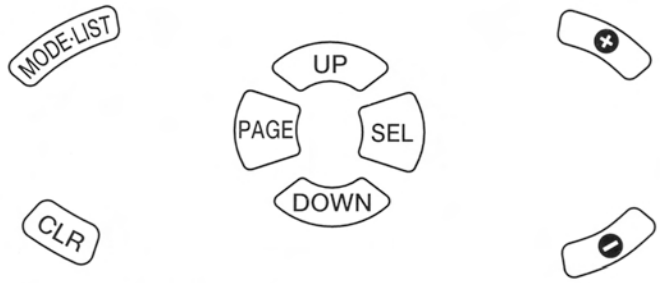
⚠ 注意

コネクターは極性を間違えない様、コーナーを削ってありますのでスムーズに差し込めます。また、差し込む時にコードの色合わせをしていただければ、より安全です。

6 キー入力及びキー表示，デジタルトリム



- 入力が有効な時はクリック音を発生し、入力の確認となります。
- クリアキー以外のキーは、オートリピート機能（押し続けると早送り出来る）をもっています。この説明書では、キー表示は次の様になっています。
- 基本的に、表示の►印のある機能では PAGE キーで、また→印のある機能では SEL で各表示が切換わります。



■ディスプレイ（液晶表示）のコントラスト調整

この送信機は、キー入力によりディスプレイのコントラスト調整が出来ます。
電源投入時の通常表示において、SEL キーを押したままの状態で、⊕ キー入力より表示は濃くなり、⊖ キー入力により、淡くすることが出来ます。
最も見やすい濃度に調整して使用して下さい。なお、設定された濃さの値は保持されます。

■デジタル・トリムについて

この送信機には、ステアリング・ホイルの左、上、右、及びグリップに２つの合計５個のデジタル・トリム（以下D.T.という）が、あります。
各D.T.は、トリムレバーを左右(上下)に倒すことで各値の調整が出来ますが、いづれにもオートリピート機能、センタークリック機能、方向認識機能があります。オートリピート機能は、トリムレバーを調整したい側に倒したまま押し続けると、早送りで、各値を連続的に増減できます。
センタークリック機能は、上のオートリピート機能動作中に、センター(ニュートラル)位置を、通過する時、通常と音色の違うクリックを鳴らすと共に、一定の時間オートリピートによる増減を停止し、再びオートリピート動作を行います。これは、ずらしてあるD.T.をセンター(ニュートラル)に素早く戻したい時、ポジション表示や画面の表示を見ずに、オートリピートが一時停止したときにトリムレバーから手を離すことで容易に全てのD.T.を、センター(ニュートラル)位置にすることが出来ます。
方向認識機能は右(上)側と左(下)側にトリムレバーを倒して調整していった時に左右で入力確認用のクリック音の音色が変わります。これも、各表示画面を見ること無く、トリムレバーを操作した時のクリック音で、おおよその位置を確認することが出来るようになっています。
さらに、左右(上下)の最大(小)値になった場合は、音色の違う少し長めのクリックを一度鳴らした後は、トリムレバーをその方向に操作してもクリックは鳴りません。これは、トリムレバーを操作した時、すでに最大(小)値まで、来ていることを知らせるためのものです。
以上の様に、車(船)体の走(航)行中に車(船)体から目を離さず、D.T.の操作を、よりスムーズに行うことが出来ます。
さらに、各D.T.は、無効にすることを含む８種類の機能から選択する（ファンクションセレクト）ことが出来ます。よって５個のD.T.は操作をし易い位置に好みの機能を割り当てることが出来ます。

7 アラーム及びエラー表示

1 バッテリーアラーム及び表示

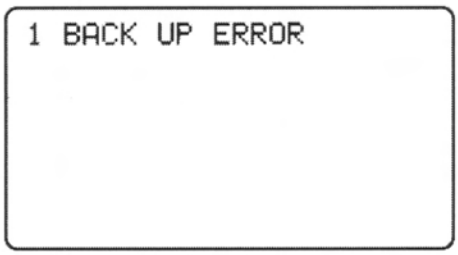
送信機の電池電圧が9.0Ｖ以下になると、ディスプレイ中に"BATT"が点滅を始め、5回のアラーム音を発生します。走行中、アラーム音を確認した場合は早めに停止させて下さい。また、より長い時間、ご使用頂くためにも、乾電池の場合は、アルカリ乾電池のご使用を、おすすめいたします。
尚、バッテリーアラーム点滅中は、モデルの切換は出来ません。

2 ワーニングメッセージ

この送信機をご使用になる場合、電源ＳＷをオンとした時とモデルを切換た時に、ドライブモードＳＷ、アイドルアップＳＷが、前回使用時の状態と違う場合またはアイドルアップ機能がアクティブでアイドルアップＳＷがオフでない場合に、それを知らせるメッセージがアラーム音と共に表示されます。レバーＳＷを、全て、ノーマルな状態とすれば、通常表示画面に移ります。
また、この機能が必要ない場合、送信機モード機能（システムモード）で、オフにする事ができます。
また、この時サーボは動きません。

3 バックアップエラー表示

各設定データーは、内蔵のリチウム電池によりバックアップされています。このリチウム電池の寿命は約5年と考えて下さい。電池の寿命もしくは、何らかの原因により設定データーが消えてしまった場合、送信機の電源ＳＷ オンで、



と表示され、同時にアラーム音を発生します。

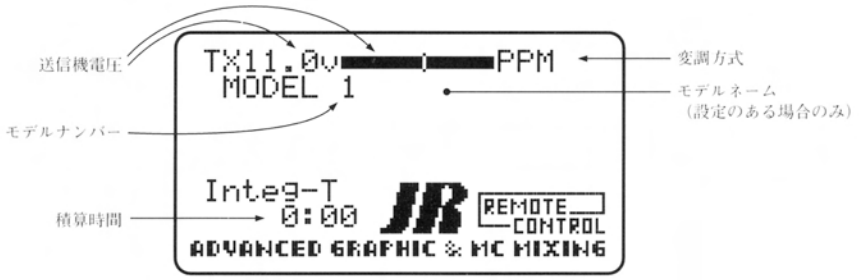
※何の表示も出ず、アラーム音も出ない場合もあります。この様な場合は送信機の電池電圧が低下していることがありますので、確かめてから判断して下さい。

この場合は、リチウム電池の交換もしくは何らかの修理が必要となりますので、当社サービス課へお送り下さい。

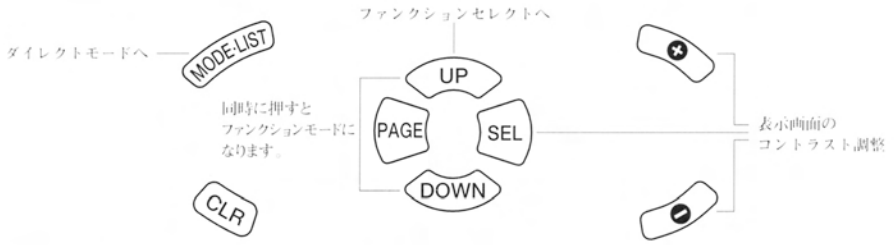
8 入力モード及び機能一覧

1 通常表示

電源SWをONにすると、画面は次の様な通常表示となります。



この表示が出ると、次のキー入力が出来ます。入力は次の様にして下さい。



上図のボタンで各種の設定をする場合は次のBファンクションモード及びCシステムモードで行って下さい。

2 ファンクションモード

通常表示から UP と DOWN キーを同時に押す、または、ダイレクトモードで各キーを押すと、ファンクションモードとなります。このモードでは、各種の機能を UP または DOWN キーにより順送りで選択し、サーボの動作を見ながら設定することが出来ます。

チャンネルや付加機能表示を切り替える必要がある場合は、PAGE キーまたは SEL キーを使用します。もしチャンネル切り替えをしたまま次の項目に切り換えた場合、そのチャンネルが新しい項目で同一のチャンネル表示となります。

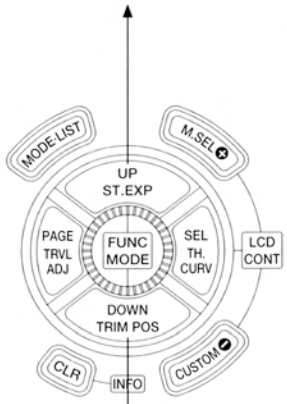
ミキシング量などを、走行させながら調整したい場合でも、このファンクションモードのまま走行させることも出来ます。そして、このモードから UP と DOWN キーを同時に押すと、通常表示へもどります。

またモード・リストキー MODE·LIST を1回押すとダイレクトモードになります。モード・リストキー MODE·LIST を2回押すとリスト・モードとなります。

各機能の設定方法は、後述の個々の説明を見て下さい。

<ファンクションモード機能>

右図の機能を上方向へ順送り、または押し続けると早送り出来ます。



右図の機能を下方向へ順送り、または押し続けると早送り出来ます。

★	[D/R & EXP]	P 15　デュアルレート、エクスポネンシャル
	[Sub Trim]	P 16　サブトリム
★	[TRVL ADJ.]	P 16　左右舵角調整
	[THRO Hold]	P 17　スロットルホールド（プッシュボタンに設定時のみ）
★	[THRO CURV]	P 18　スロットルカーブ
	[SPEED ADJ]	P 20　*スピード調整
	[A.B.S.]	P 21　*アドバンスド　ブレーキシステム
	[IDLE UP]	P 23　*アイドルアップ
	[QUICK TH.]	P 23　*クィックスロットル
☆	[TIMER]	P 24　タイマー設定（プッシュボタンに設定時のみ）
★	[Model SEL]	P 27　モデル切換及びコピー
★	[POS.]	P 28　ポジション表示

*印の機能は、送信機のモードが、ビギナーの場合現われません。

★印は、ダイレクトモードで直接呼出し可能です。

☆印はダイレクトモードでの呼出しは、ファンクションセレクト（システムモード）で設定されたカスタムキーの割り当てによって決まります。

（初期状態では、タイマー設定が割り当てられています。）

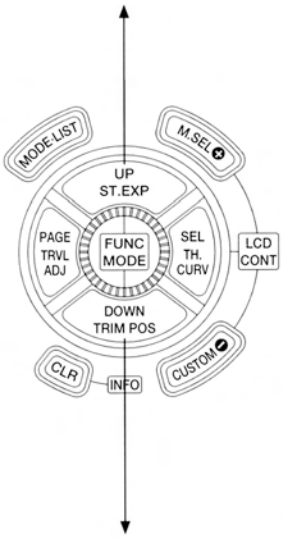
3 システムモード

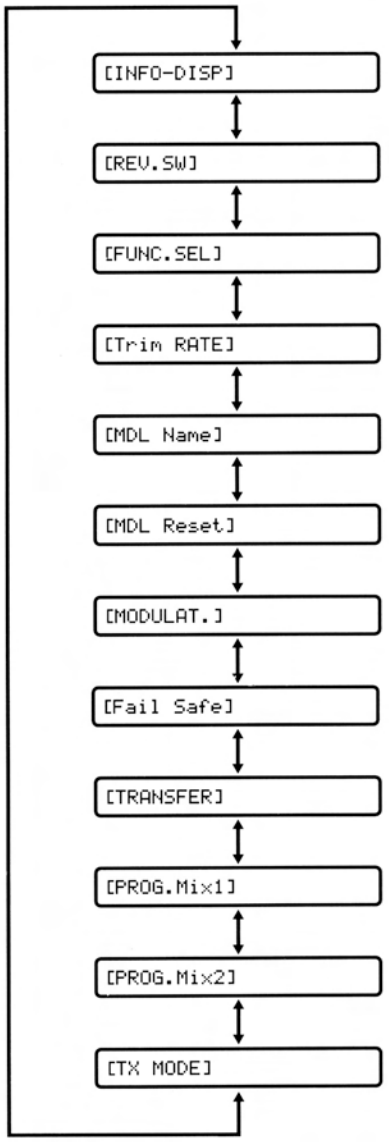
モード・リストキー (MODE·LIST) を押しながら電源SWをOFFからONにすると、システムリストモードとなります。このモードでは、下図に示す機能をファンクションモードと同様 (UP) または (DOWN) キーにより、順送りで選ぶことが出来ます。各機能の設定方法は後述の個々の説明を見て下さい。

このモードでも、電波は出ていますので、他の同一バンドの妨害とならないように注意して下さい。

このモードになっている時 (UP) と (DOWN) キーを同時に押すと、通常表示となります。

<システムモード>

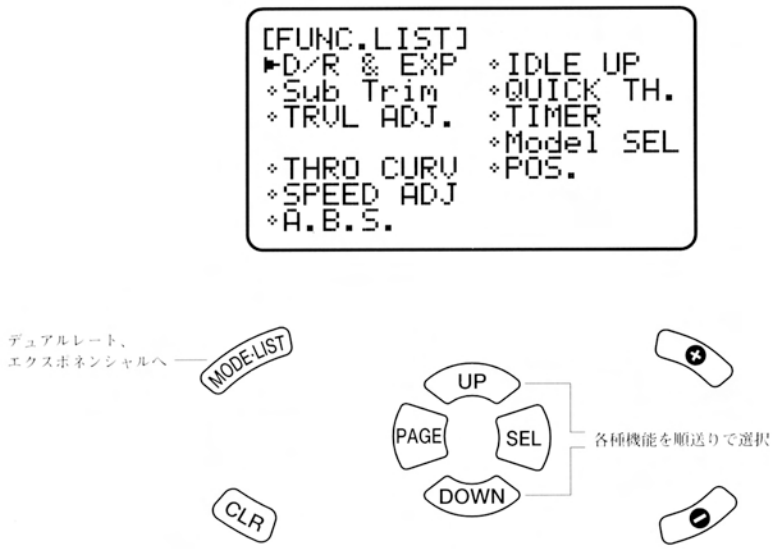




P 10 通常表示（リスト表示時のみ）
P 29 リバーススイッチ
P 30 *ファンクションセレクト
P 31 *トリムレート
P 31 モデルネーム入力
P 32 データリセット
P 32 モジュレーション切換
P 33 フェイルセーフ（ＰＣＭ時のみ）
P 35 送信機間モデル転送
P 38 *プログラムミキシング 1
P 38 *プログラムミキシング 2
P 40 送信機モード

*印の機能は、送信機のモードが、ビギナーの場合現われません。

4 リストモード

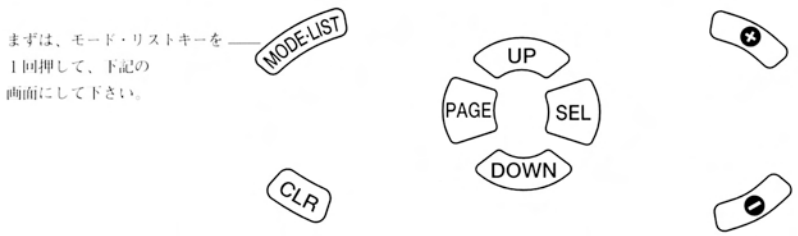


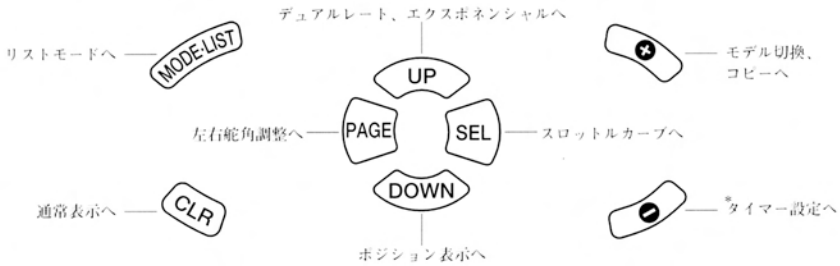
通常表示または各機能表示から MODE·LIST キーを2回押すとリストモードとなります。この表示から MODE·LIST キーを押すと、リスト中►で示された機能になります。

また、► 表示は UP 、DOWN キーいずれかのキー入力によって移動します。

5 ダイレクトモード

通常表示または、７種類のファンクションモードの機能画面を素早く呼出す事ができます。各機能に、入った後は、通常のファンクションモード動作と同じです。なお、このモードへは、システムモードでは、入れません。



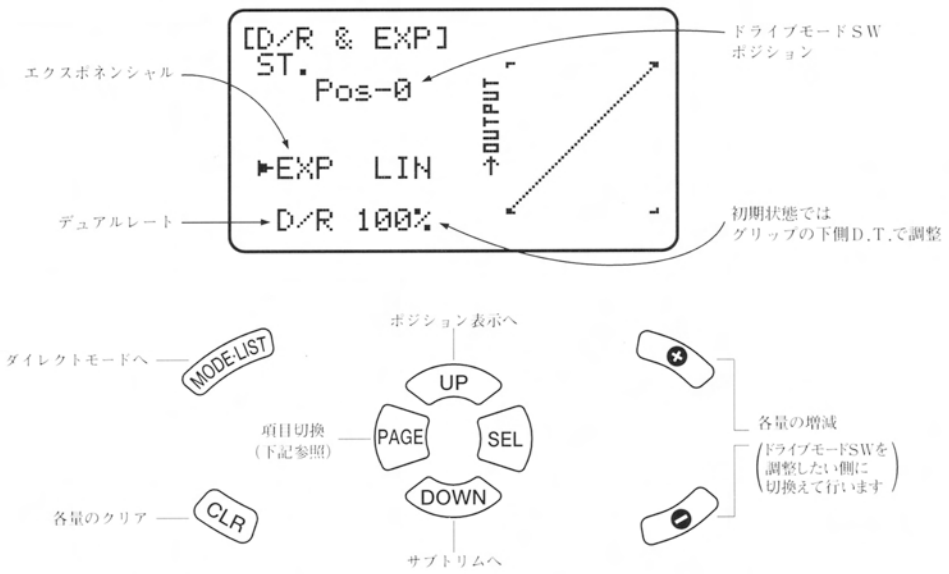


上記の表示画面の状態で、各キーを押すと、各キー表示の下側に記された該当する各機能に、直接移ります。

※ ⊖ キーには、初期状態では、タイマー設定の機能が、割当られていますが、ファンクションセレクト機能（システムモード）で、任意の機能を割当てる事が出来ます。

9 各機能の使用方法

1 デュアルレート、エクスポネンシャル<DUAL RATE,EXPONENTIAL> ★

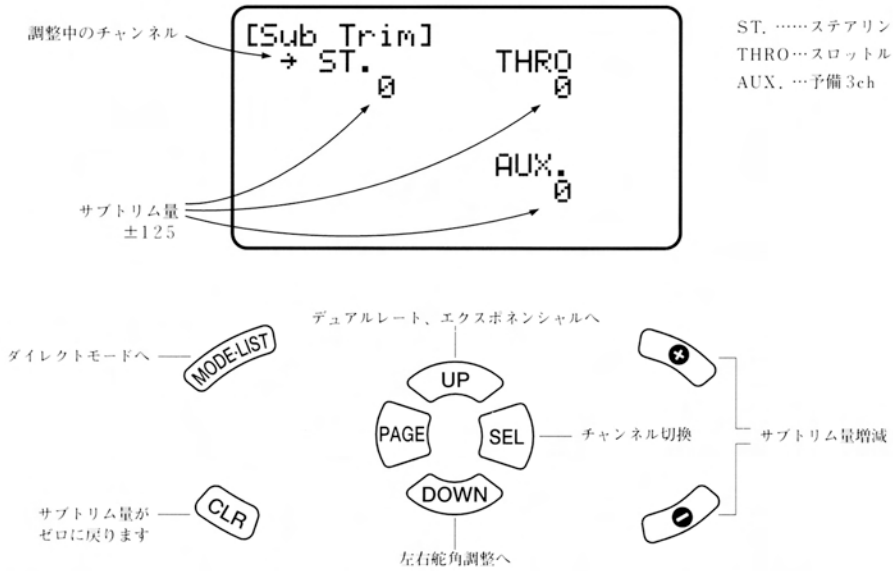


ドライブモードSWにより、ステアリングチャンネルのレート切換を行うものです。各ポジション共に、デュアルレート0～100%、エクスポネンシャルLIN(0%)～100%の調整が可能です。エクスポネンシャルの設定と組み合わせることにより、各々独立したさまざまなセッティングが可能となります。エクスポネンシャルはステアリング操作に対するサーボの動きを対数曲線的にし、最大舵角を変えずにニュートラル付近の動きをマイルド（マイナス方向）にしたり、クィック（プラス方向）にする機能です。

■デュアルレート調整ついて

デュアルレートの調整は、初期状態では、グリップのD.T.下側に割り当てられてます。
また、いずれのD.T.にも"ST.D/R"デュアルレートの調整機能を割り当てない時は、この画面で、PAGE キーでデュアルレート項目調整に切換えた後、⊕、⊖、CLR キーでの調整になります。

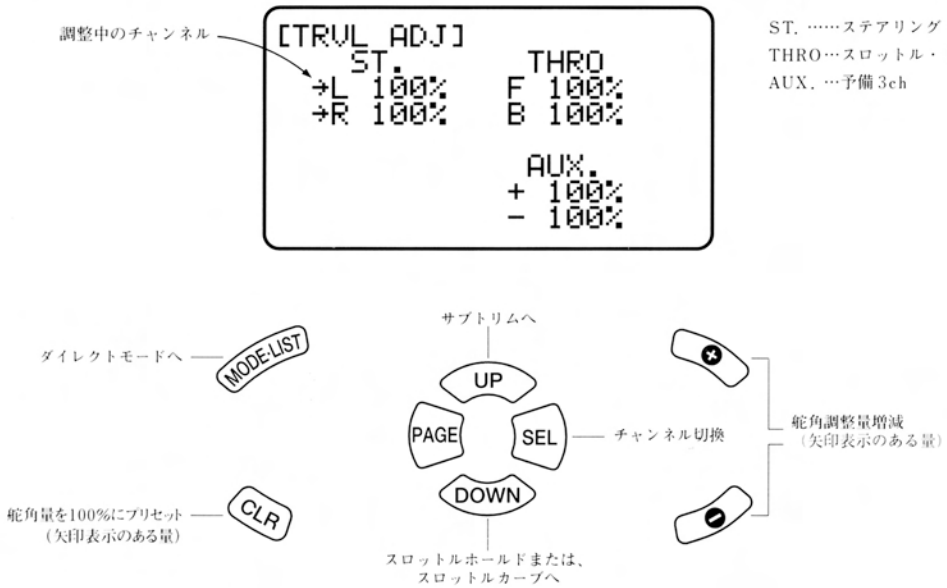
2 サブトリム<SUB TRIM>



各チャンネルに接続したサーボ個々の補助的なトリムです。サーボホーンの取付角度の微調整などに利用して下さい。可変範囲は最大約±30°です。この時、表示は125を示します。もし、5°程動かしたい時は、5／30×125≒20、すなわち数字を20位にすれば良いわけです。

しかし、あまり大きく動かすと、サーボの最大舵角に影響が出ますので、できるだけ小巾な調整をお推めします。

3 左右舵角調整<TRAVEL ADJUST> ★



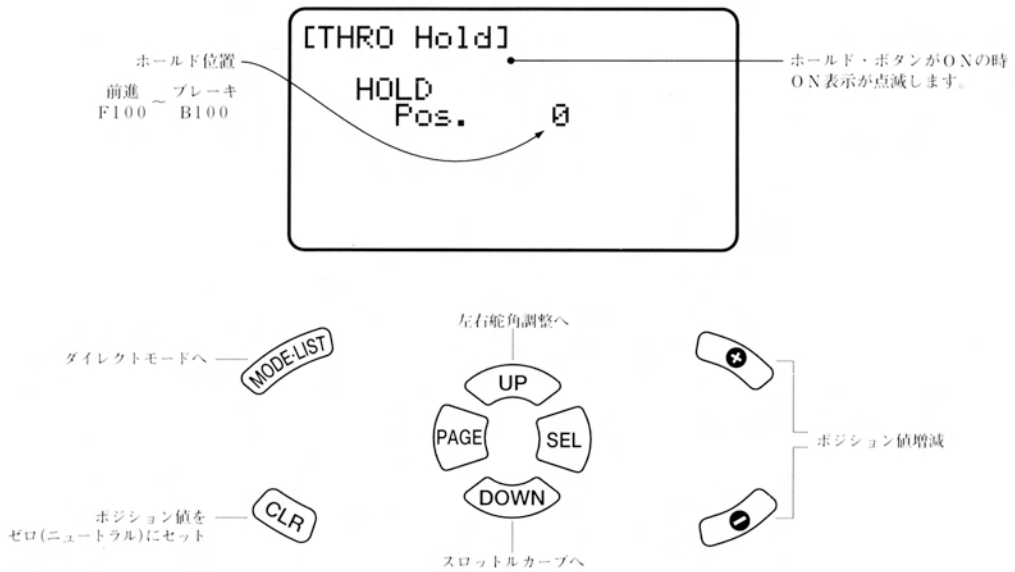
各チャンネルのサーボ動作（ニュートラルが基準）の左右舵角調整です。各チャンネル共、左右それぞれ0～150%(0°～約60°）の範囲の調整が出来ます。標準値は100%で、これが通常舵角です。

調整時、各チャンネル共ニュートラル位置では左右(上下)が、同時に増減します。また、右(下)または左(上)に各舵を、きった状態でそれぞれの方向のみの調整ができます。

4 スロットルホールド<THROTTLE HOLD>

※タイマー設定（ファンクションモード）との二者択一になります。

ファンクションセレクト（システムモード）の設定で、プッシュボタンに、TH.HOLDを選択した場合、この機能が、アクティブになります。



プッシュボタンを押している間、スロットルを自由な位置に固定できます。
ポジションの値は、固定時のスロットル位置で、Fが前進、Bがブレーキ側です。なお、プッシュボタンを押して固定状態の時は、左右舵角調整、サブトリム、リバーススイッチ以外のスロットルに対する設定、及び、スロットルデジタルトリム量は、全て無視されます。

5 スロットルカーブ<THROTTEL CURVE> ★

この送信機は、スロットルカーブの設定に8ポイントアジャスト方式を採用しているので、8点の調整を自由に行い、最良の走行状態になる様なスロットルカーブを作ることが出来ます。

さらに、この送信機はドライブモードSWポジション0及び1で2系統の設定を行う様に設計されています。

数字でのデジタル表示は、各ポイント(L・1・2・3・H)それぞれのサーボホーンの動作する位置を表しています。また、各ポイント(L・1・2・3・H)は、スロットルのトリガーのそれぞれの舵の位置でもあります。(グラフ1)を参照して下さい。例えばポイント2は、前進の中心です。これに対して、サーボはどれだけ動いているかはデジタル表示に表れます。もし、75%ならば直線的であり、60%にすると、対数的になるわけです。

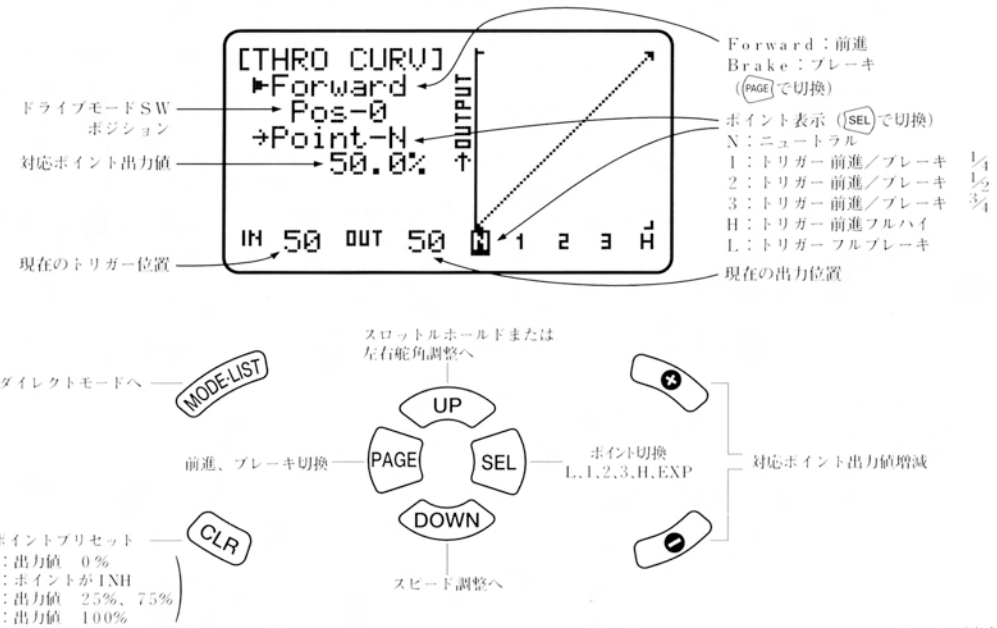
また、ポイント2が75%であってもHの位置が80%であれば、逆に逆対数的になります。この様に、各ポイントの数値の設定しだいで、どんなカーブでも作ることが出来るわけです。

もし、Hを100%に設定すると、中間点の1・2・3の表示数字によって、おのずからカーブを読み取ることが出来ます。これが大きな利点でもあります。

なお、ドライブモードSWのポジション0・1のそれぞれに対して調整が出来るのも、大きな利点です。

(注) スロットルの舵角調整量は、中心より見て直線動作となる様ハイ側ロー側共に同じ値とし、リンケージ及びサブトリムで微調整してフルストロークになる様にすることにより、理解しやすくなります。

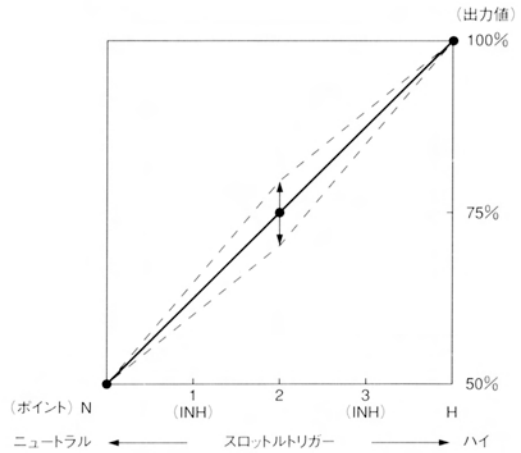
下図の表示は、前進側0ポジションの位置です。



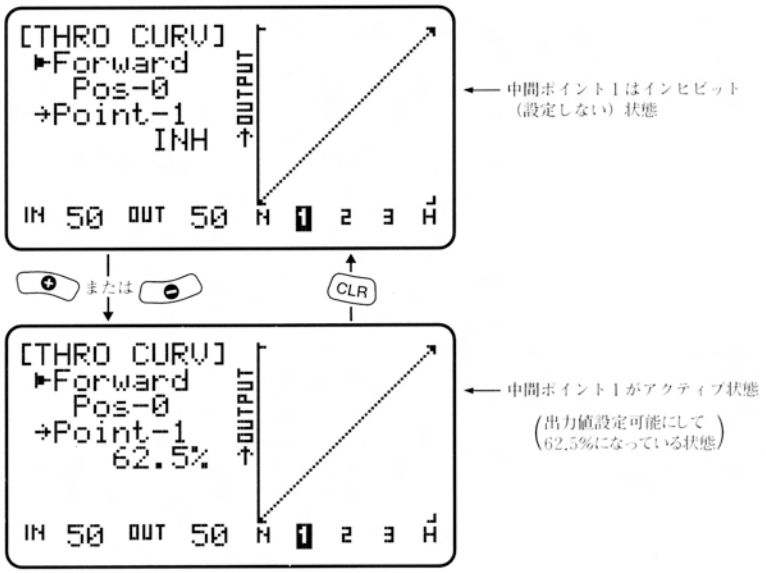
■中間ポイント（1・2・3）に関して

出荷時は、すべてのSWポジション共に、中間ポイント1及び3がインヒビット(INH)となっており、(グラフ1)に示す様な動作となっています。なお、中間ポイント1及び3は、自由にインヒビット(INH)またはアクティブ(出力値表示)状態とすることが出来ます。

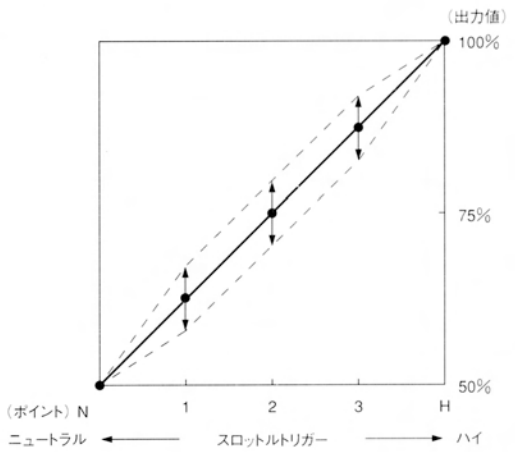
この状態から中間ポイント1をアクティブにする場合は、SEL キーによりポイント表示を1とし、⊕ または ⊖ キーを押します。



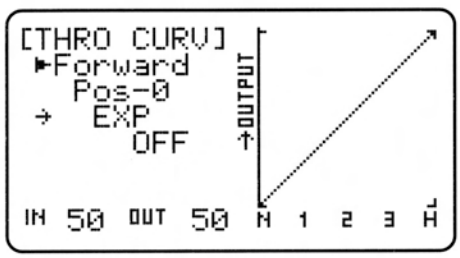
(グラフ1) 出荷時 (中間ポイント1及び3はINH状態)



中間ポイントの1または3をINHからアクティブ状態にした時は、とりあえず自動的にそのポイントの上と下のポイント(すなわち、3をアクティブにした時は2とH)の中間値が出力値として表示されます。また、もし中間ポイントをすべてアクティブにすると、初期値としてグラフ2の様になります。この状態は直線的になっています。これから自由にカーブを設定出来るのですが、設定にあたっては、次の事がらを考えながら実施して下さい。
中間ポイント1または3を設定するのかしないのか、そして、車のセッティング状態も考えに入れて、各競技に合わせて目的に合ったカーブを設定して下さい。



(グラフ2) 中間ポイントをすべてアクティブとした状態
(中間ポイント1及び3はINH状態)

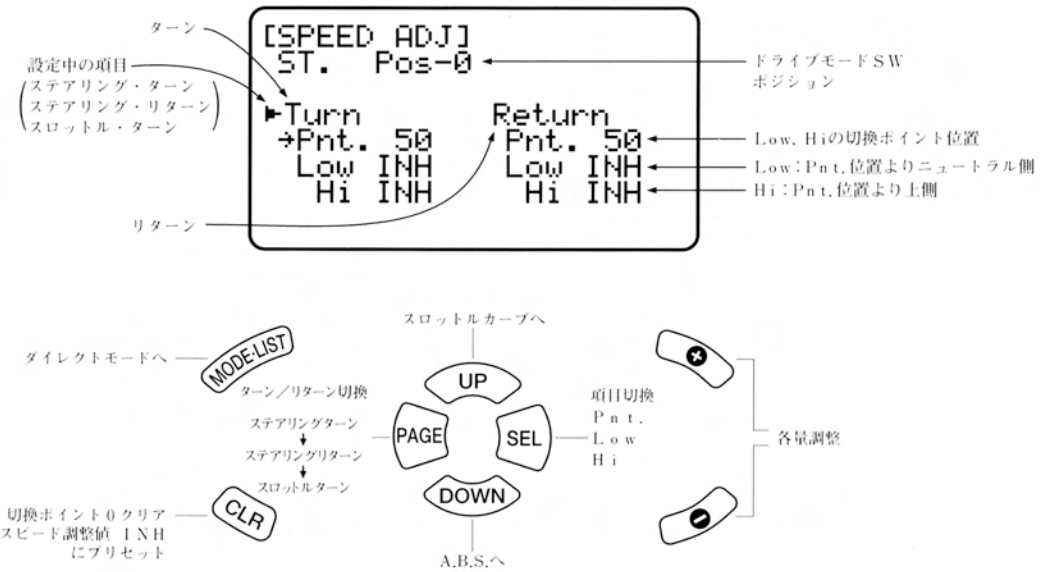


■曲線カーブ機能

カーブは各系統独立して、直線、曲線を選択出来ます。表示EXPを ⊕ 、⊖ キーによりONにするとカーブは曲線となり、各ポイント付近での出力値の変化がより滑らかになります。この機能をOFFにするには、再度 ⊕ 、⊖ キーを押すか CLR キーによりOFFとなります。

6 スピード調整<SPEED ADJUST> E

ステアリングとスロットル操作に対する動作スピードを遅らせることができます。
ニュートラルから遠ざかる操作（以下ターンという）とニュートラルへ戻す操作（以下リターンという）を、個別に設定する事ができます。さらに、ドライブモードSWに連動して2系統の異なった設定ができます。
また、任意の切換ポイントを境にして、ニュートラル側（表示"Low"）とその反対の上側（表示"Hi"）で異なったスピードの設定もできます。

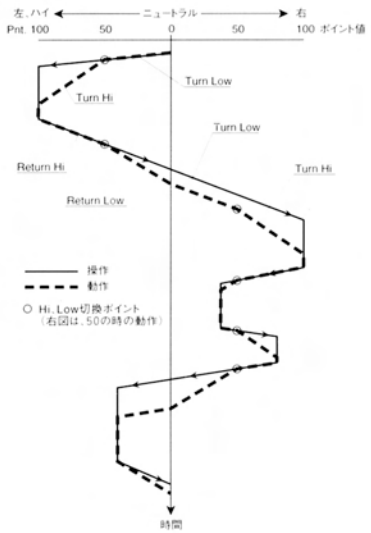


切換ポイントPnt.の値を0にすると画面"Hi"の設定値のみの動作となり、"Low"側は無視されます。また、Pnt.の値を100にすると、この逆の動作となります。操作途中でのスピードの切換の必要がない場合は、Pnt.の値を0にして、Hi側のみで調整して下さい。
また、Low、Hiの位置での調整は、1～125で数字が小さい程、遅い動作となります。INH(インヒビット)は、スピードの機能が影響せず、サーボ本来のスピードとなります。なお、操作自体を、スピードの設定値よりも遅くした場合もサーボの動作には、影響しません。
なお、スロットルは、ターンのみドライブモードSW切換2系統の調整となります。

※この機能がアクティブの場合、通常表示に"Speed"が、点滅表示します。

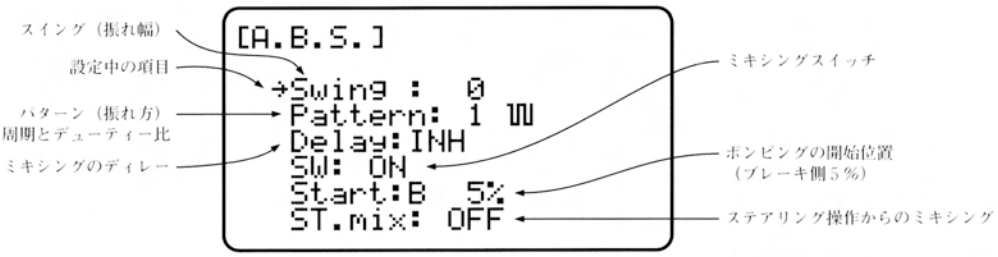
次に、下記の様な、設定の場合の、操作に対する動作例を示します。

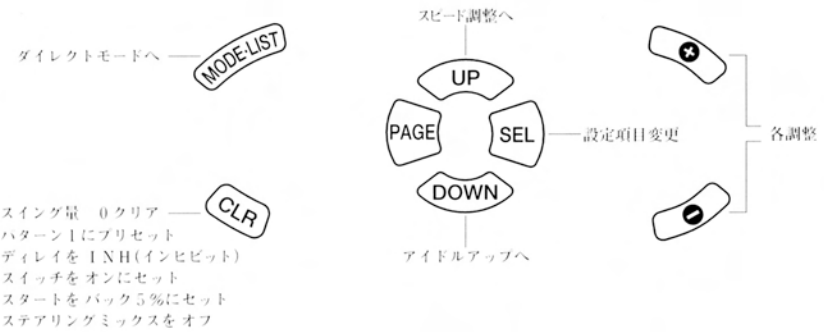
Turn		Return	
Pnt.	50	Pnt.	50
Low	INH	Low	60
Hi	70	Hi	INH



7 アドバンスドブレーキシステム<A.B.S.> E

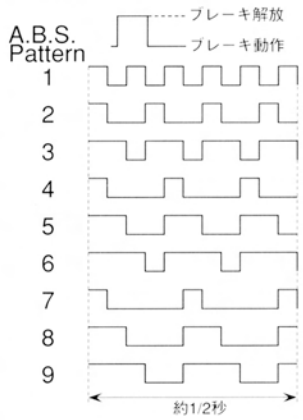
スロットル・トリガーのブレーキ操作時に、スロットルサーボを自動的にポンピング・ブレーキ動作にします。





■スイング(Swing)は、ブレーキの振り幅の設定で、この値が、0の時は、本機能の他の設定に関わらずA.B.S.は、オフとなります。

■パターン(Pattern)は、ポンピングの周期(速度)とデューティ一比(ブレーキングしている時間と離している時間の比率)を、最良の形で組み合わせたものを、調整するもので、右記の9種類の中から選択でき、設定1が最も周期の速い、デューティー50%となります。



■スタート(Start)は、ポンピング動作を開始する点で、スロットル・トリガーの位置に相当します。すなわち、トリガーをブレーキ側のどの位置まで押した時に、この機能が、働くかを設定するものです。

■ディレー(Delay)は、スロットル・トリガーを操作した時に、前文で説明したスタート(ポンピング動作開始点)点より、フルブレーキ側に入った時、すぐにポンピング動作を始める(INH)のか、または、ある一定の時間(4~100)遅れてポンピング動作を始めるのか、を設定するものです。
なお、このディレー時間のカウントは、トリガーが、スタート点より、ニュートラルよりに、戻された場合、リセットされ、再度、スタート点よりブレーキ側になった時、新たに再カウントを始めます。

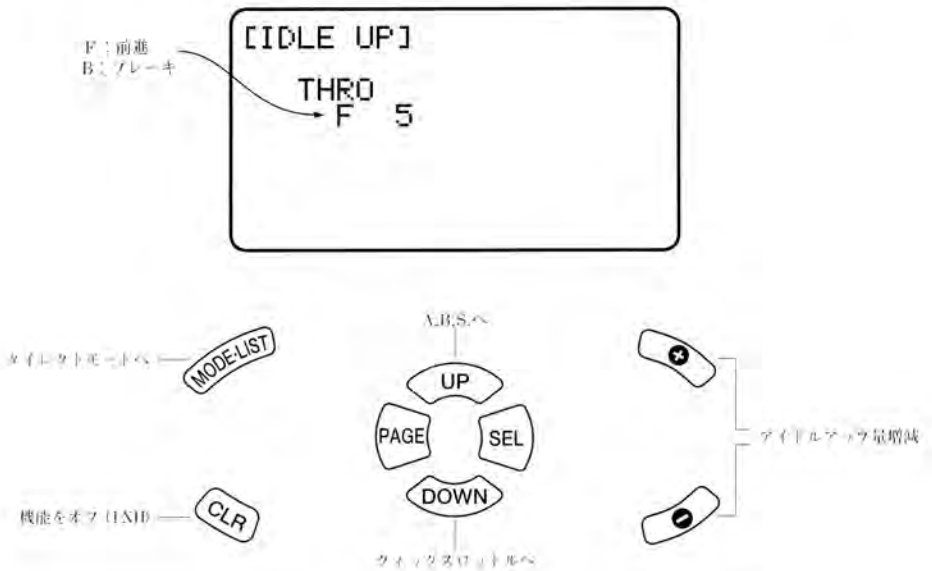
※この機能がアクティブの場合、通常表示に“A.B.S.”が、点滅表示します。

■スイッチ(SW)は、この機能のオン/オフを行うものです。
D.MODEは、ドライブモードSW下側でオン、IDLE UPは、アイドルアップSW下側でオンとなり、ONは、常にこのミキシングが働きます。

■ステアリング・ミキシング(ST.mix)は、ステアリング・ホイルの操作によって、ブレーキの振れ幅が、スイングの設定値を基準に、減少するものです。
設定値が、+側で、ステアリング・ホイルを、一杯切った時、最大振れ幅、-側でステアリング・ホイルが、ニュートラル位置で最大振れ幅となります。
ステアリングに連動した動作が、不要な時は、OFF(オフ)に設定して下さい。

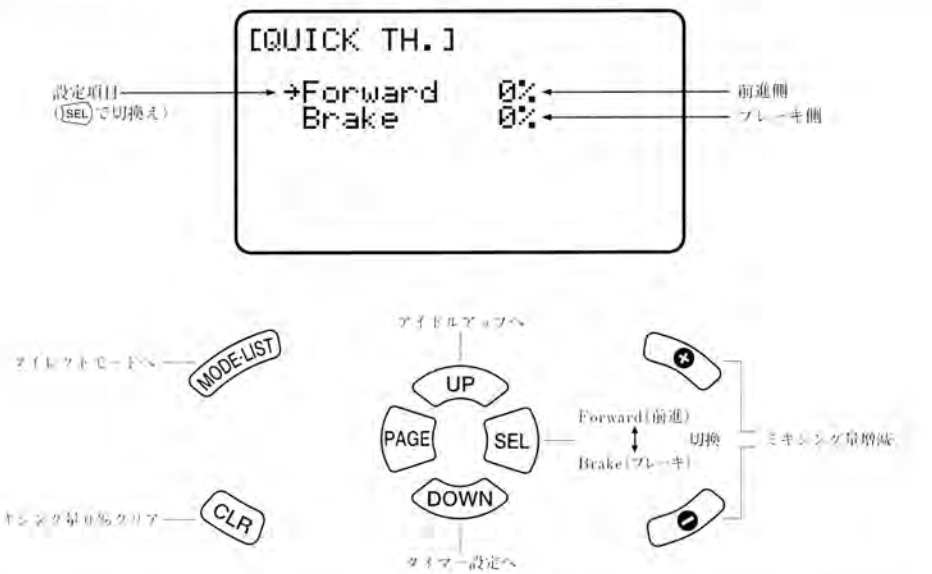
8 アイドルアップ<IDLE UP> E

スロットルのニュートラル位置を、前進側または、ブレーキ側のいづれか一方にオフセットするもので、エンジンカー等で、アイドリングを上げる時に用います。



実際には、アイドルアップスイッチを下側にした時に、ここでの設定値の位置に、スロットルサーボが、オフセットされます。この時、画面にＯＮ表示が現れます。

9 クィックスロットル<QUICK THROTTLE> E



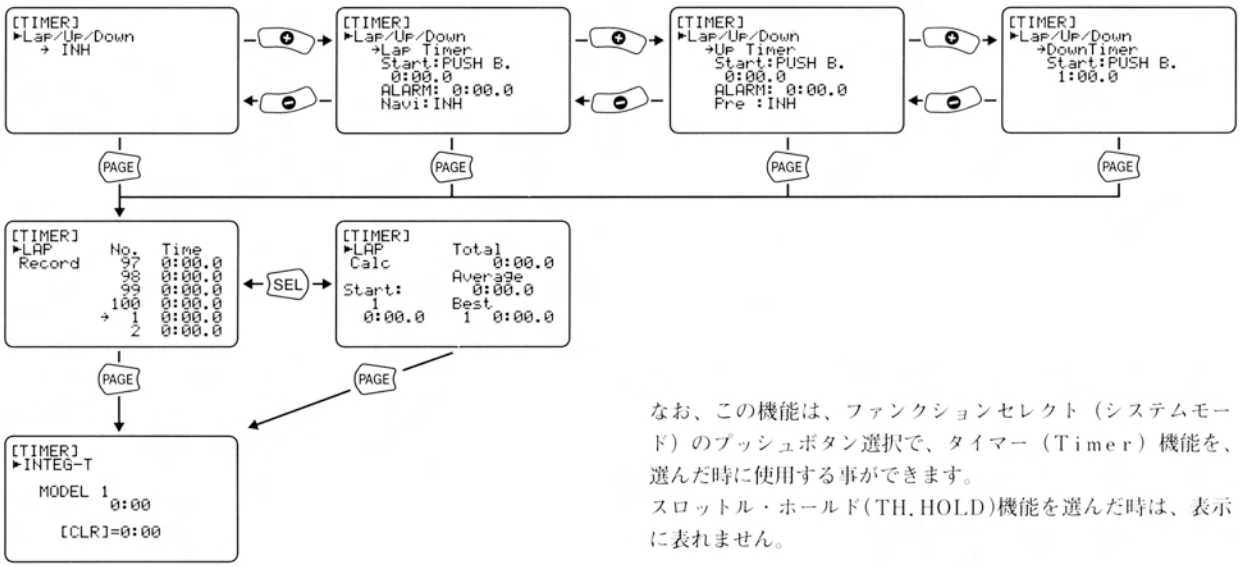
スロットル・トリガー操作に対する、ニュートラル付近のレスポンス(反応)を上げるミキシングです。Forward(前進)、Brake(ブレーキ)側、各別々に設定できます。
前進、ブレーキ両側共に、標準舵角の100%まで設定できます。100%にすると、ニュートラルを境にして、スイッチ的な動作となります。また、ここでの設定は、左右舵角調整に連動します。

10 タイマー設定<TIMER> ☆

※この機能は、スロットル・ホールド機能との二者択一となります。

タイマーには、3種類の計測タイマーと積算時間タイマーがあります。
さらに、計測タイマーには、ナビ／プレタイマーが、別系統であります。

また、ラップタイマーは、100周分のラップタイムを記録する事ができます。
各タイマー機能は、下記のように切換ります。

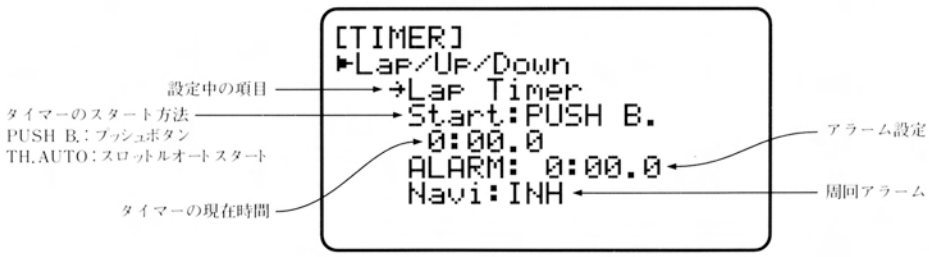


なお、この機能は、ファンクションセレクト（システムモード）のプッシュボタン選択で、タイマー（Timer）機能を、選んだ時に使用する事ができます。
スロットル・ホールド(TH.HOLD)機能を選んだ時は、表示に表れません。

ラップ／アップタイマー

ラップタイマーは、レース等で、使用される計測コンピュータと同じ方式で、最大100ラップまでメモリーできます。

ラップタイマーは、99分59秒9まで計測できます。
SELキーで、各設定項目の変更ができます。



■タイマーのスタート方法

矢印を、スタート(Start)の項目に合わせ、 、 キーで、スタート方法を選びます。
プッシュボタン(PUSH B.)のマニュアルスタートか、スロットル・オート(TH.AUTO)のオートスタートの2つの方法から選べます。プッシュボタン・マニュアルスタートは、ラップ(または、アップ)タイマーが、0:00.0の時にのみプッシュボタンで、スタートできます。スロットル・オートスタートは、設定項目の矢印を、ラップ(または、アップ)タイマーの位置にして、CLRキーを押して(タイマー値が、0:00.0でない時は、2回押して下さい。)下さい。
タイマー表示の位置に"Ready"が、点滅表示して、準備完了です。後は、スロットル・トリガーを引く(前進側)ことで、タイマーは自動的にスタートします。この、スタート方法は、双方共に他の表示に移行してもスタートは、できます。

■タイマーの現在時間（ラップ／アップ）

ラップタイマー、アップタイマーの両モード共に、矢印がタイマー表示の位置で、タイマー値の0:00.0クリアや、カウント中のタイマーを停止して、かつ0:00.0クリアや、スロットル・オートスタートの準備の、全ての動作を、CLRキーで行います。

■アラーム設定

(+)、(−) キーで、10秒単位の設定ができます。また、(CLR) キーで0:00.0にクリアします。
タイマーが、このアラーム時間になると、“ピー、ピッ”というアラーム音で知らせます。
ラップタイマー計測の場合は、さらに、このアラーム時間までの、プッシュボタン入力は、ラップタイムのメモリーが、自動的に行われるだけですが、このアラーム時間を越えてからプッシュボタンを押した場合は、ラップタイムのメモリを行った後、自動的に、タイマーのカウントが停止します。従って、ラップタイマー計測機能で使用中は、タイマースタート前に必ずアラーム設定を（0:00.0以外）行ってからスタートして下さい。アラームが、0:00.0でスタートした場合は、(CLR) キーで、停止してクリアを行って下さい。

■ナビタイマー(ラップタイマー計測機能時のみ)

1周毎にアラーム（ピッ、ピッ、ピッ、ピッピッ）を鳴らすタイマーです。
“INH”表示から、(+)、(−) キーで“1:00.0”に、また逆に“1:00.0”の時 (CLR) キー入力で“INH”になります。時間設定は、(+)、(−) キーで行いますが、増減共に、1回づつのキー入力では、0.1秒の位、押し続けによる連続的な入力では、1秒の位の調整ができます。(CLR) キーは、1:00.0にセットします。
ここでの、設定時間の3、2、1秒前に“ピッ”という音、設定時間ちょうどに“ピッピッ”という音が、鳴ります。さらに、プッシュボタン入力によってラップタイムをメモリーをする毎にナビタイマーは、自動的にリセットされ、ナビタイム設定時間から再カウントを繰り返します。

■プレタイマー(アップタイマー計測機能時のみ)

アラーム設定で、設定されたアラーム時間の前に、予告アラーム（ピッピッピッ）を鳴らします。
設定方法は、ナビタイマーと同じです。

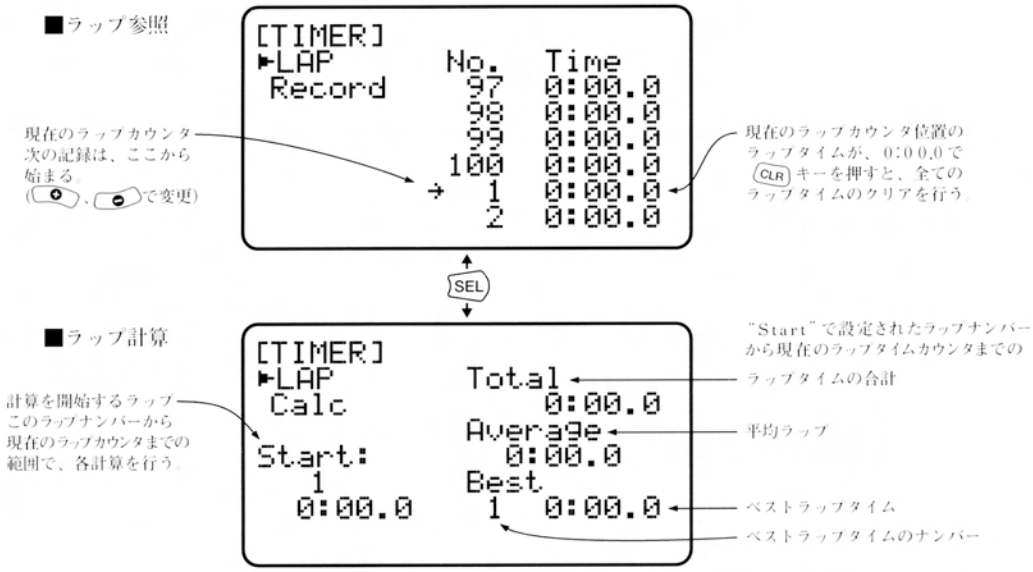
ダウンタイマー

設定した時間から、カウントダウンするタイマーです。時間設定は、50分まで可能です。(+)、(−) キーで増減します。(CLR) キーで、“1:00.0”にプリセットします。
ダウンカウント中は、20秒(ピー、ピー)、10、3、2、1秒(ピッ)前に、アラーム音で時間を知らせます。ゼロ(0:00.0)を過ぎるとアラーム（ピー）と共に、アップカウントに移り、時間表示に＋表示が出ます。このタイマ動作中の時間表示は、通常画面(電源投入時の最初の表示)で確認する事が出来ます。

通常表示において

ラップタイマーは、(PAGE) キーでポーズ（Pause）状態、いわゆるタイマーをリセットせず一時停止する事ができます。ラップタイマー計測中、コースアウト等で、一時的に、タイマーを停めたい時に、使用して下さい。再度 (PAGE) キーを、押す事で、タイマーが、再スタートします。
アップタイマーは、プッシュボタン以外に、(PAGE) キーでタイマーのスタート／ストップ、また、(CLR) キーで、ストップとゼロ（0:00.0）クリアを行う事が出来ます。

ラップタイムの参照と計算



■ラップ参照

ラップタイマー計測で、メモリーされた100周分のラップタイムを見る事ができます。

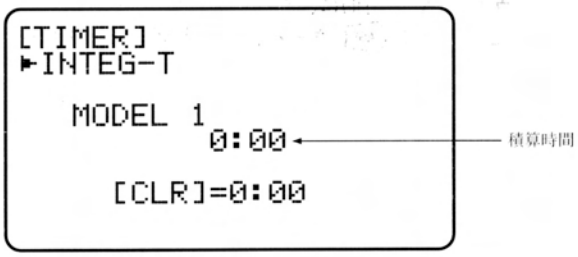
(+)、(−)キーで、表示されている矢印右側のラップナンバーとタイム表示をスクロールできます。

CLR キー入力は、矢印右側のラップタイムが、ゼロ(0:00.0)クリアされます。さらに、矢印右側のラップタイムが、すでにゼロ(0:00.0)の場合は、全てのラップタイムをゼロ(0:00.0)クリアし、ラップカウンタを"1"にセットします。ラップタイムがゼロ(0:00.0)の状態での、1回目のCLR キー入力で全てのラップタイムのゼロクリアを行うかどうかを聞いて来ます。クリアするならば再度 CLR キーを、クリアを中止するなら、CLR キー以外のキー(例えば、カウンタアップ/ダウンの(+)、(−)キー等)を押して下さい。

■ラップ計算

スタート(Start)表示下のラップナンバーから現在のラップカウンタ(ラップ参照画面で矢印の右側の数字)の、1つ手前までの間でラップタイムの合計時間(Total)、平均ラップ(Average)、ベストラップ(Best)を、計算して表示します。(+)、(−)キーで、計算を開始するラップナンバーのスタートラップの変更が、出来ます。

積算時間



積算時間も、各モデルごとのものです。100時間でゼロ(0:00.0)にもどります。

各車体のメンテナンス時期の目安等に御利用下さい。

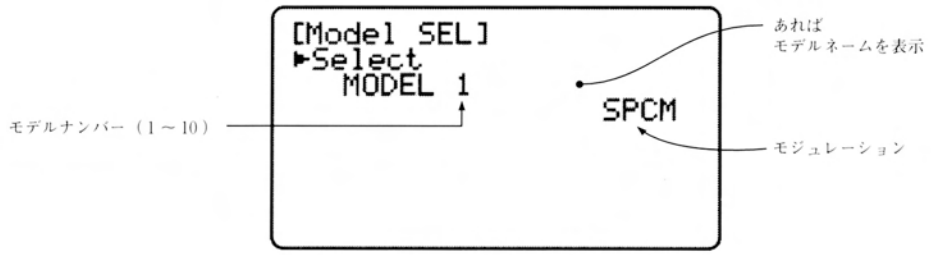
CLR キー入力で、積算時間をゼロ(0:00.0)クリアできます。

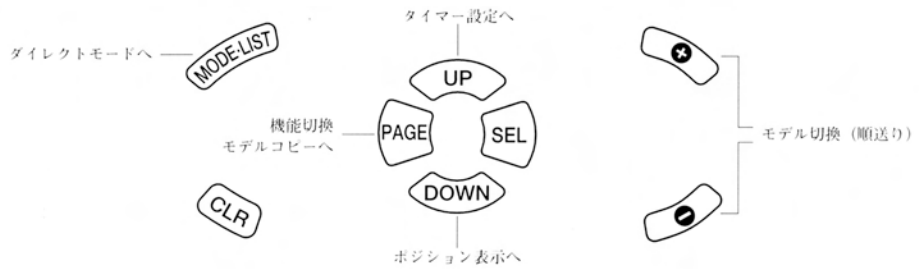
11 モデル切換、コピー＜MODEL SELECT & COPY＞ ★

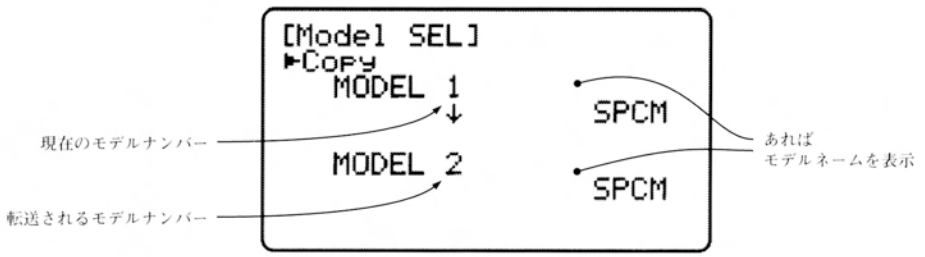
この送信機は、10台分の異なる車体のセッティングや異なるタイプのセッティングのすべての設定をメモリーしておくことが出来ます。

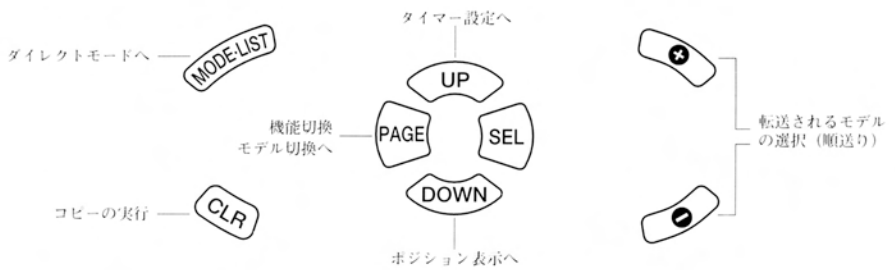
なお、モデル選択の間違いのない様、モデルネーム（次項）を活用して下さい。

（注意）バッテリーアラーム点滅中は、モデルの切換は出来ません。









■コピー機能

この機能は、現在のモデルのすべての設定データを、他のモデルへ転送するものです。

、 キーで、転送される側のモデルを選択し、 キーで実施します。

大切なデータを消さないために、モデルネーム（次項）を活用して、転送の前にモデル名を確認することをお推めします。

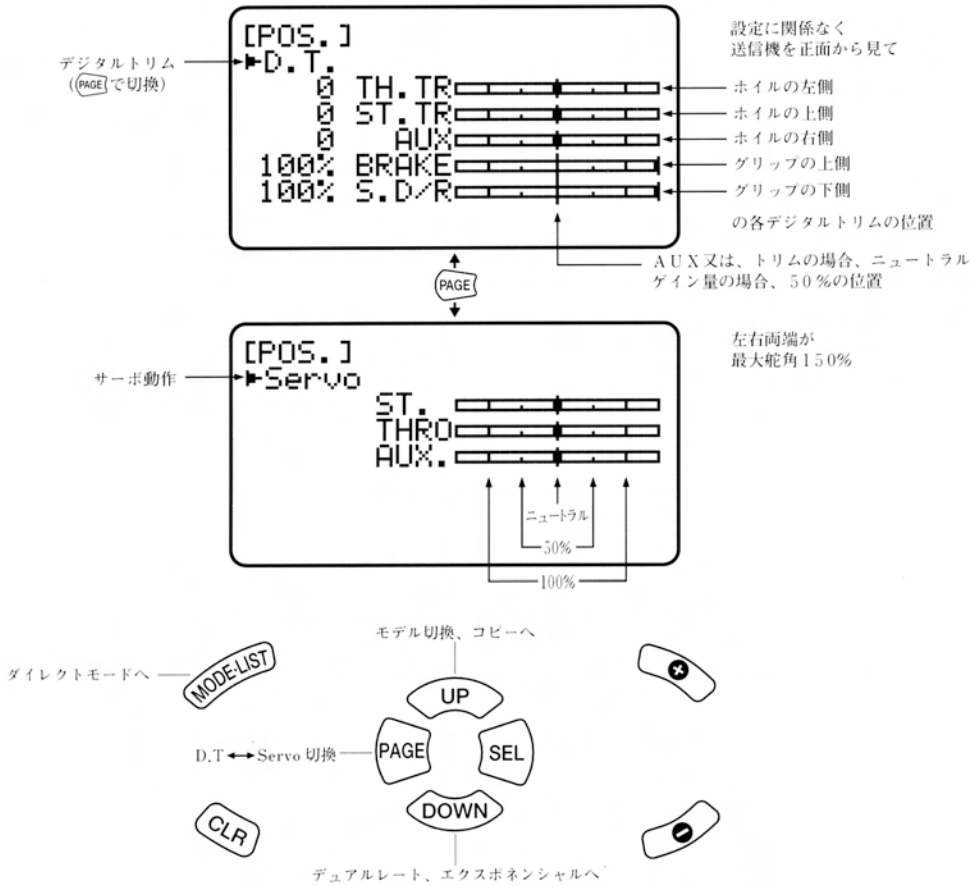
■注意事項

●転送される側のモデルの前の諸データは、コピー機能を実施すると転送された新しいデータによって消されますので、注意して下さい。

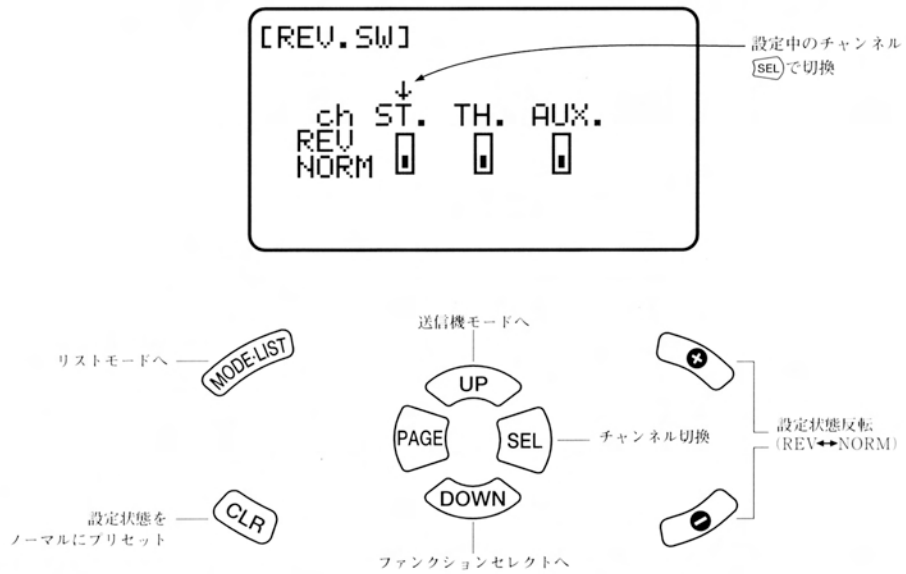
●バッテリーアラーム点滅中は、コピーの実行は出来ません。

12 ポジション表示<POSITION> ★

この機能は、各デジタルトリムの位置、各チャンネルのサーボ動作を送信機の表示画面でモニターするためのものです。
サーボ動作表示ではバー表示中心の縦線がニュートラル位置です。これを中心に左右各々順番に舵角５０％、１００％の位置に目盛りがあり、左右両端が最大舵角１５０％となります。
ここでの動きは、全ての調整やミキシング等を含んだものとなります。
各表示位置については、大まかな目安として下さい。



13 リバーススイッチ<REVERSE SW>　（システムモード）

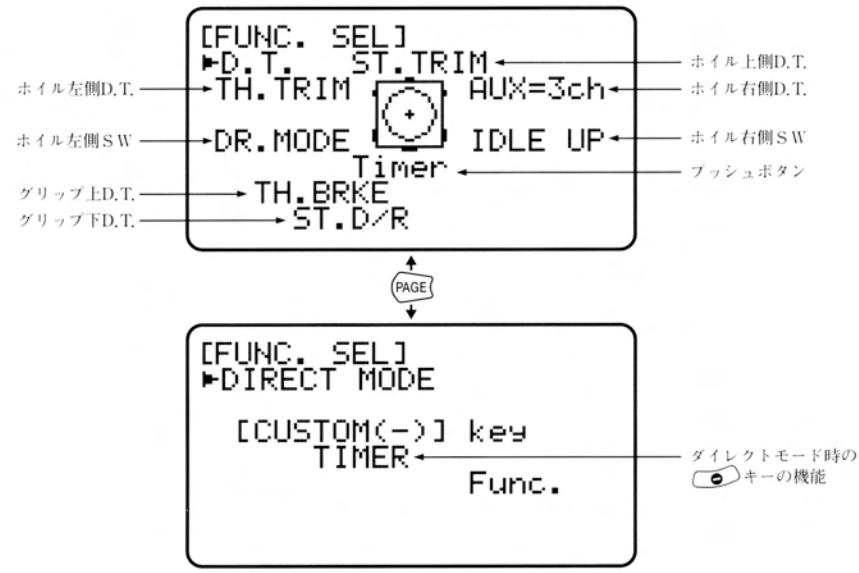


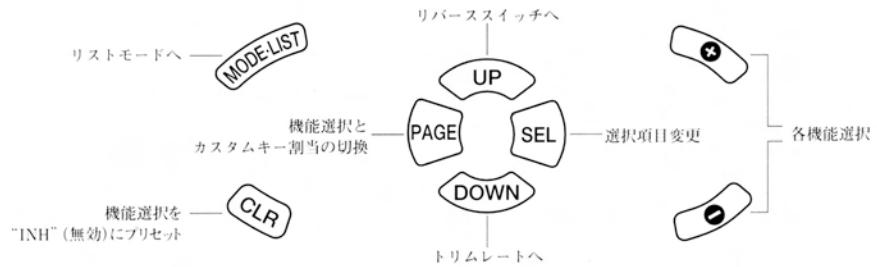
サーボの動作方向を変える機能です。
全チャンネル設定可能です。

SW表示が上側で、リバース動作となります。

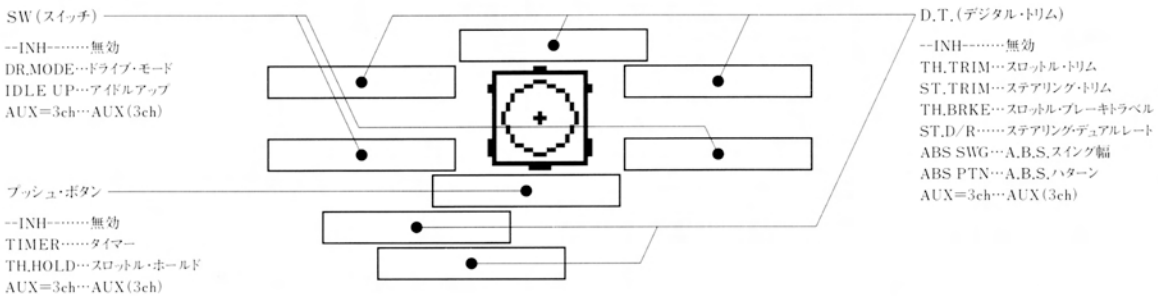
14 ファンクションセレクト<FUNCTION SELECT>（システムモード）E

各デジタル・トリム（以下D.T.という）、スイッチ（以下SWという）、及びプッシュボタンの機能設定を選択する機能と、ダイレクトモード時のCUSTOM（カスタム）キーの、ジャンプ先の機能名を選択する機能です。





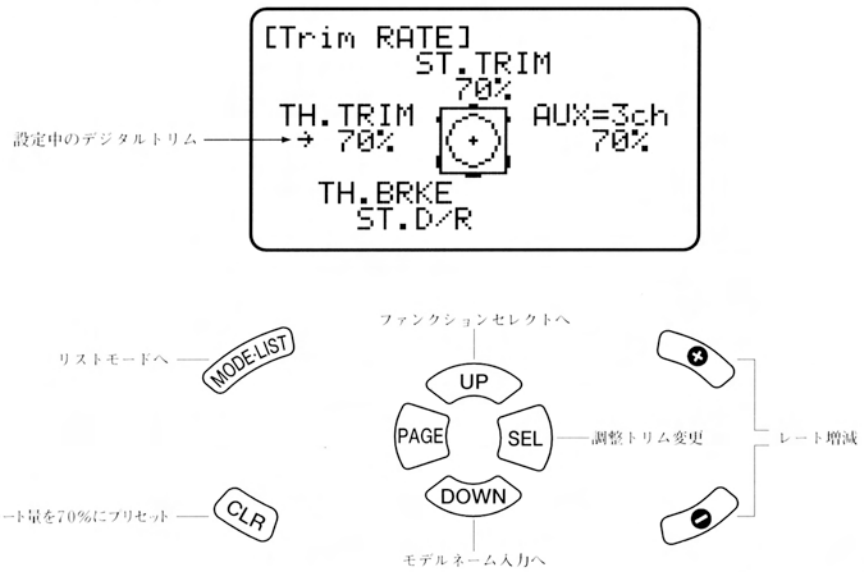
●D.T.、SW、プッシュボタンの機能選択では、SELキーで、項目の切換をおこないますが、選択中の項目が、点滅表示します。5つのD.T.と2つのSWにおいては、いづれかで、すでに選択されている機能は、他方で、重複して選択できません。よって、表示画面に出ている機能を、他の場所に変更したい場合は、その機能を、割当からはずして（例えば、"--INH--"にする）から、新たな場所に設定して下さい。なお、AUX(3ch)選択は、送信機モード機能（システムモード）の、AUX(3ch)の割当てによって、選択できる場所が、影響を受けます。各選択項目の種類は、以下の通りです。



●ダイレクト・モード時のカスタムキーへの割当が設定できます。

初期状態では、タイマー設定機能が割当てられています。
また、各キーのオレンジ色で書かれた機能は、すでに割当られており、選択する事はできません。

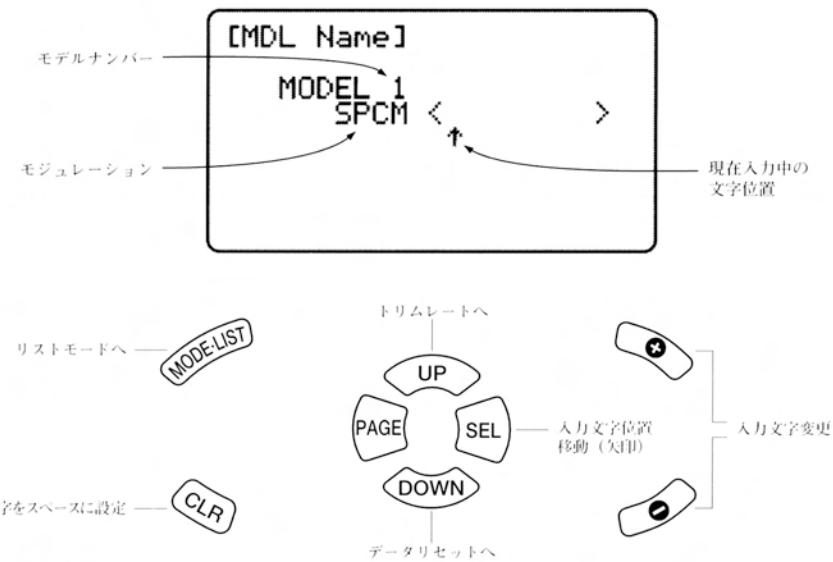
15 トリムレート<TRIM RATE>　（システムモード）E



デジタルトリムの1ステップの変化量を調整する機能で、デジタルトリムの最大動作量も、変化します。ファンクションセレクト（システムモード）で、選択された機能が、スロットル・ブレーキトラベル（TH.BRKE）、ステアリング・デュアルレート(ST.D/R)、A.B.S.スイング幅(ABS SWG)、A.B.S.パターン（ABS PTN）のデジタルトリムのレート量調整は、できません。

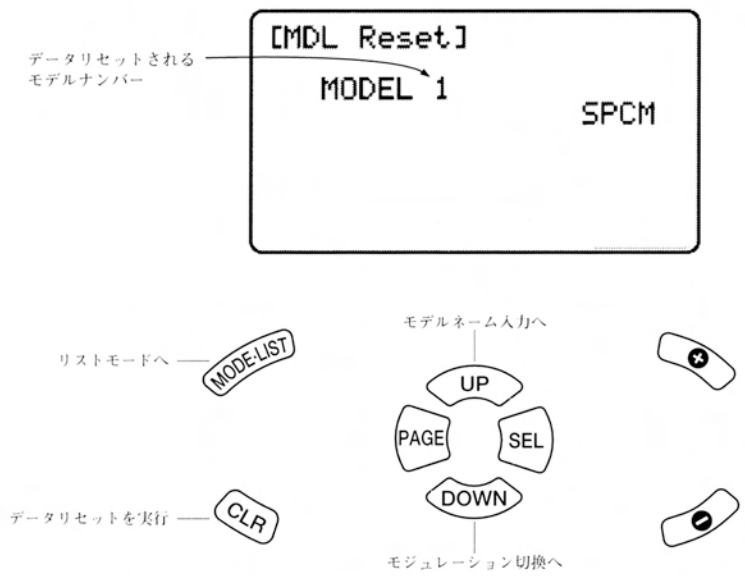
さらに、AUX(AUX＝3ch)を、選択されたデジタルトリムは、レート量0～100%の他にステップ動作(1～5ステップ)設定もできます。これは、AUXの標準舵角を、1～5分割した段階的な動作となります。例えば、1step(1ステップ)を選択した場合、AUX(3ch)は、D.T.によってスイッチ的な動作となります。

16 モデルネーム入力<MODEL NAME>　（システムモード）



各モデルごとにモデル名を入力出来ます。入力したモデル名は、通常表示中に現われます。車体名等を書いておくと、間違える心配がなく便利です。文字は最大8文字です。

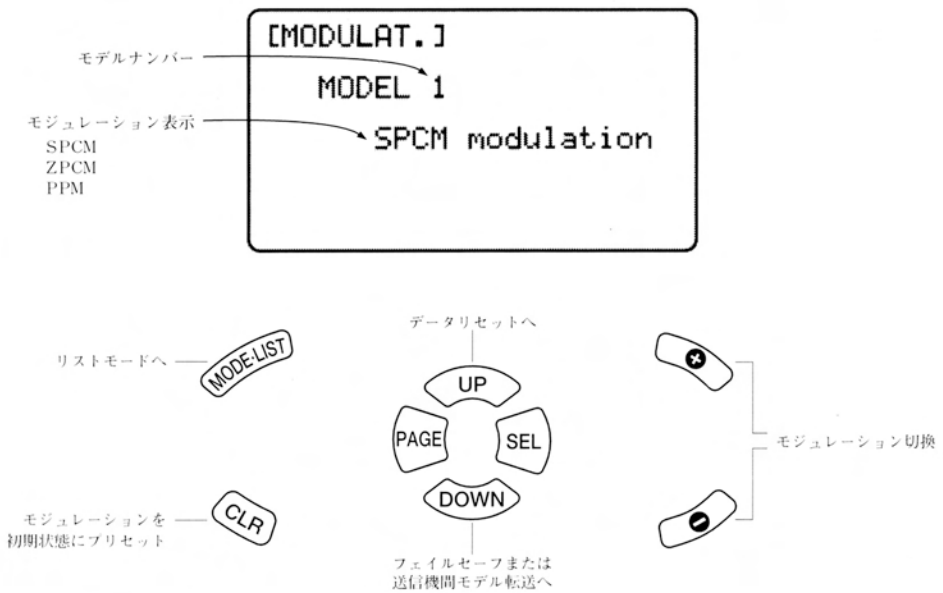
17 データリセット<DATA RESET>　　（システムモード）



現在のモデルのすべての機能及び設定値を、初期状態にプリセットする機能です。他のモデルのデータは影響されません。大切なデータを消さない様、必ずモデルナンバーを確認し実行して下さい。

（注意）モジュレーションの設定状態は、影響を受けません。

18 モジュレーション切換<MODULATION>　　（システムモード）



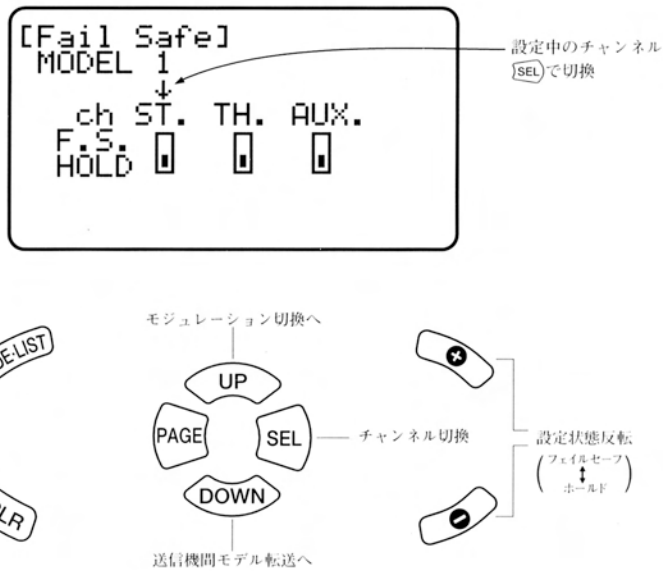
（注意）モジュレーション切換を行った後、電源をＯＦＦしてしまうとモジュレーションが切換わりません。
UP、DOWN キーを押すか、MODE·LIST キーを押した時にモジュレーションが切換わります。

19 フェイルセーフ（PCM時のみ）<FAIL SAFE>（システムモード）

この送信機には、ＰＣＭ使用時、ノーコン直前の状態を保持するホールド機能と、ノーコン状態が設定された時間以上続くとあらかじめ任意に設定した状態にサーボが移動するフェイルセーフ機能を持っています。フルスロットルでの衝突等による大変危険な状況をさけるため、出来るだけフェイルセールの使用をお推めします。

受信機へのデーター転送は自動的に行われるので、走行のたびにセットする必要はありません。もちろん、ノーコンの原因がなくなれば、直ちに回復し、コントロールが可能となります。

＜ＳＰＣＭ＞

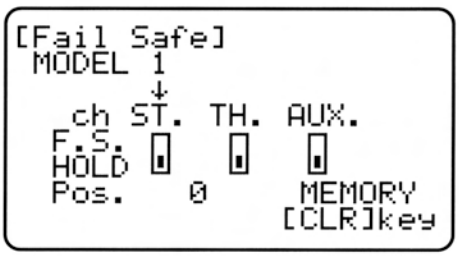


ノーコン時、フェイルセーフ動作に、はいるまでの時間（１／４秒）、サーボはホールド状態を保ちます。

SELキーにより、１チャンネル～３チャンネルを個々に、フェイルセーフまたは、ホールドに設定可能です。フェイルセーフに設定した場合は、設定されているフェイルセーフ位置が表示されます。

※フェイルセーフ位置のメモリー設定は、必ず行って下さい。

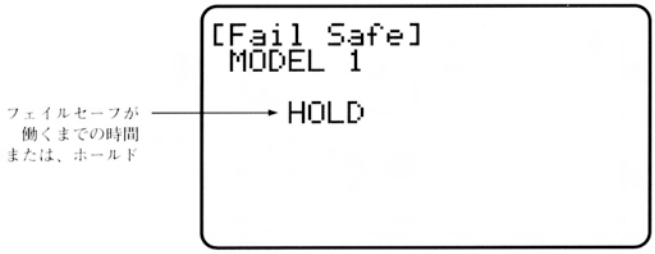
■フェイルセーフ位置メモリーの設定



フェイルセーフ設定チャンネルを希望する位置（たとえば、スロットルトリガーをニュートラル）とし、CLRキーを押して下さい。送信機は、画面のスイッチがF.S.側（フェイルセーフ）にあるチャンネルの位置をメモリーします。

※位置のメモリーは、画面のスイッチが、F.S.側にある全てのチャンネルを同時に記憶します。
画面に位置表示(Pos.)が出ていないF.S.側にあるチャンネルの位置も確認して下さい。

＜ＺＰＣＭ＞

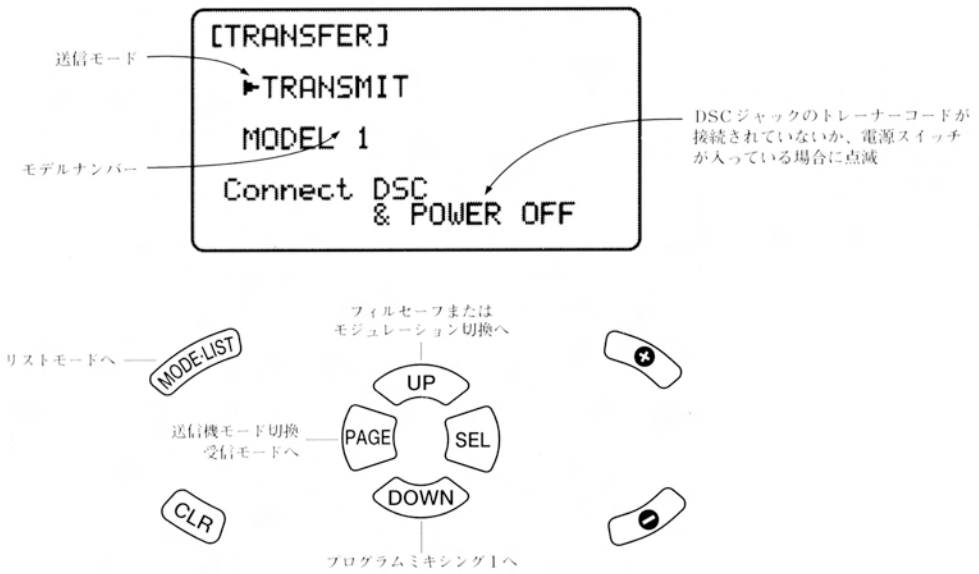


フェイルセーフが働くまでの時間は、１秒･１／２秒･１／４秒の３種類あり、 、 キーで順送りで選択します。フェイルセーフ機能を設定した場合には、画面右にメモリーの表示が表れますから、全チャンネルを希望する位置とし(例えば、スロットル･トリガーをニュートラル)、 CLR キーを押して下さい。送信機は、その位置をメモリーします。

動作の確認は､送信機の電源ＳＷを切ることによって出来ます。なお、フェイルセーフ位置のメモリー設定は、必ず行って下さい。この設定データは、自動的に受信機に送られます。

20 送信機間モデル転送<TRANSFER>　　（システムモード）

この機能は、２台のR−1送信機間でモデルデータのコピーを行うものです。
この機能を使用する場合は、それぞれの送信機のDSCジャックをトレーナーコード（別売）で接続しパワースイッチをオフの状態で行って下さい。



■転送手順

①送受信モード両側　　パワースイッチオフの状態で、それぞれ MODE·LIST キーを押しながらＤＳＣジャックにトレーナーコードを接続する。（送信機はシステムモードとなる。）

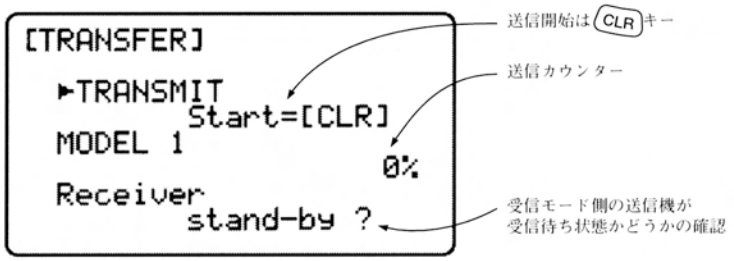
②送受信モード両側　　この機能（送信機間モデル転送）を呼び出す。

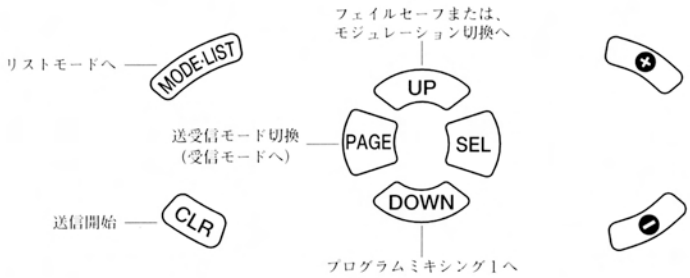
③受信モード側　　PAGE キーで受信モードとし、＋ − キーで受信されるモデルナンバーを選ぶ。

④受信モード側　　CLR キー入力により、受信待ち状態とする。

⑤送信モード側　　CLR キー入力により、送信を開始する。
送受信両モード共、End ok! の表示が出て転送が正常終了。

<送信モード>

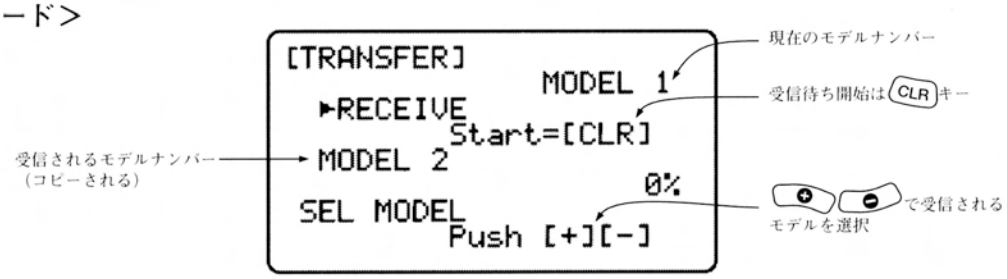


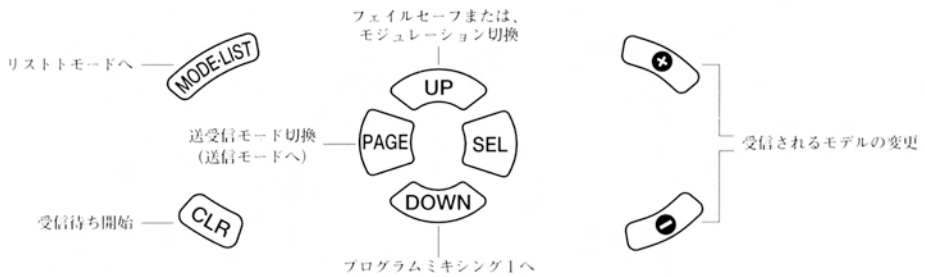


現在使用中のモデルデータを他の送信機に転送する機能です。転送するモデルデータを変更したい場合は、モデル切換機能（ファンクションモード）により希望するモデルナンバーとした後、この機能を呼び出して下さい。CLR キー入力により送信を開始します。また、この時受信モード側の送信機を、先に受信待ち状態としておいて下さい。モデルデータの送信が正常に終了した場合、送信終了表示の

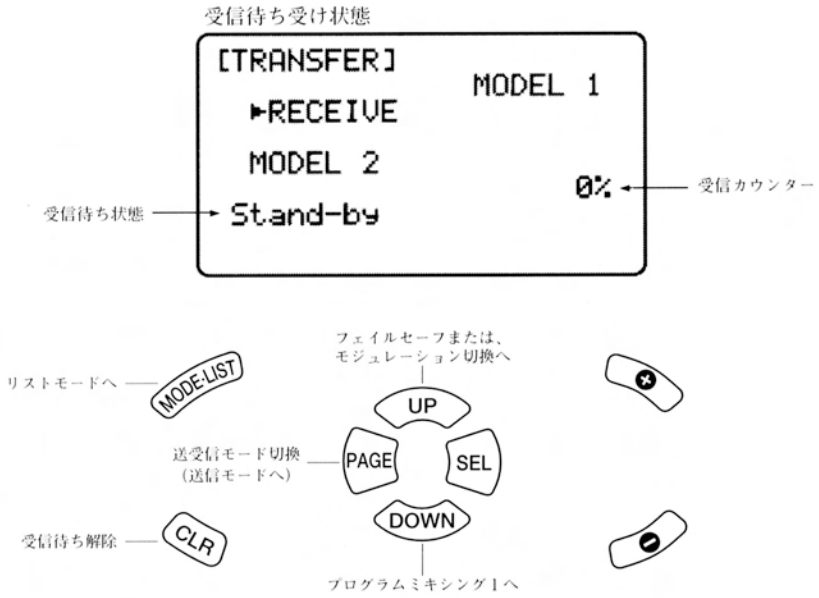
End ok!　　が表示されます。

<受信モード>





他の送信機からのモデルデータを任意のモデルに受信（コピー）するモードです。まず、＋ －キーにより受信（コピー）されるモデルナンバーを選択し次に CLR キー入力により、受信待ち状態として下さい。



この時、表示下に受信カウンター０％の表示が共に表示されます。このカウンターは送信モードの送信機からデータが送られてくると、自動的に増加し受信終了で100％になります。受信が途中で異常になった場合、カウンタ表示の増加が停止し異常を知らせます。この場合、CLR キー入力により受信を停止して下さい。また、受信カウンターが正常に増加し、100%になった場合でも、大切なモデルデータを保護するため、以下のような受信エラー検知機能が有ります。

表示

ERROR

表示正常にデータの受信が
出来ませんでした。

Tx mismatch

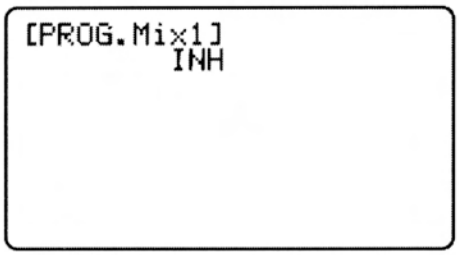
モデルデータの互換性がとれません。
データはコピーされませんでした。

受信カウンタが途中で停止、または、ERROR　の表示が出た場合、DSCジャックの接触不良や、トレーナーコード自体の断線等を確認の上、再度やり直して下さい。正常に受信が終了した場合、End ok!　が表示されます。
なお、この機能を使用する場合、必ず受信モード側の送信機を先に、受信待ち状態とした後、送信モード側の送信機の CLR キーで転送を開始して下さい。また、受信が正常に終了した場合、受信(コピー)されるモデルの今まであったデータは全て消えてしまい、受信したモデルデータが上書きされますので、ご注意下さい。

(注意) バッテリーアラーム点滅中は本機能は働きません。

21 プログラムミキシング1～2＜PROGRAM MIX＞（システムモード）E

この送信機は2系統のプログラムミキシングを装備しています。次の表示は、ミキシング1のインヒビット（禁止）時のものです。(+)、(−) 何れかのキーを押すとミキシング設定画面に変わり、ミキシングが有効になります。また逆に、ミキシングが有効の状態で、チャンネル設定中に CLR キーを押すと、ミキシングはインヒビットになります。



ミキシングを有効にした後、PAGE キーを押して► 表示を移動し設定項目を選択して下さい。

■チャンネル設定

► 表示をマスターチャンネルの左側にします。 SEL キーを押して設定するチャンネル下側に_表示を移動し、(+)、(−)キーでチャンネル名を変更します。ここで、CLR キーを押すとミキシングはインヒビット（禁止）になります。

■操作SWの選び方

各プログラムミキシングは、任意のスイッチによって、オン／オフさせることが出来ます。► 表示を“SW：”の左側にし、(+)、(−) キーで選択します。選択可能なスイッチの表示及び、オンとなる位置は次の表のようになります。なお、CLR キーはスイッチを“ON”にセットします。

スイッチ表示	ミキシングがオンとなるスイッチ位置
ON	つねにミキシングは、オン
D.MODE	ドライブモードスイッチが、下側
IDLE　UP	アイドル・アップスイッチがオンの位置
PUSH　BT	プッシュボタンが、押されている間

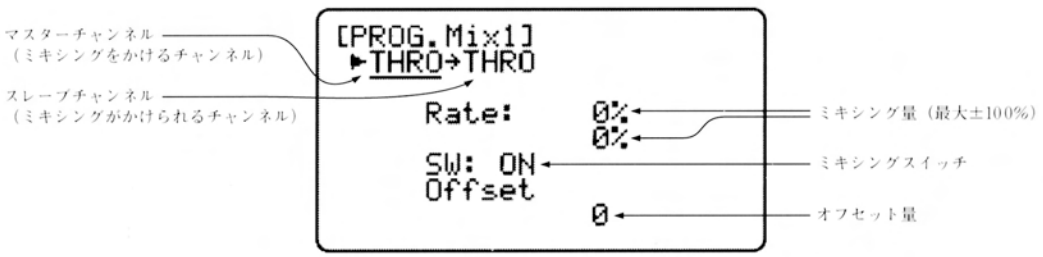
次回、呼び出した場合は、この画面となります。
チャンネル設定、操作ＳＷの選び方は、前項目の説明を参照して下さい。なお、このミキシングでは対応するＳＷがオフ側にある場合は、ミキシング量設定、及びオフセット設定は出来ません。

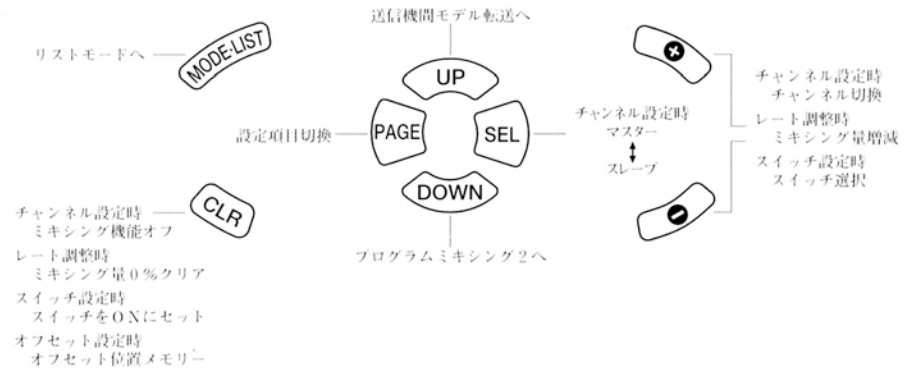
■ミキシング量設定

表示を“Ｒａｔｅ:”表示の左側にします。次に、マスターチャンネルのトリガー等を調整したい側に移動し、片側ずつ別々にミキシング量を設定して下さい。ミキシング方向を逆にしたい場合は(－)キーでミキシング量をマイナス向へ増加させて下さい。次項目のオフセット設定で、ミキシングの基準点（次の項でメモリーする位置）を移動すると、その点を境にマスターチャンネル操作方向表示が変わります。

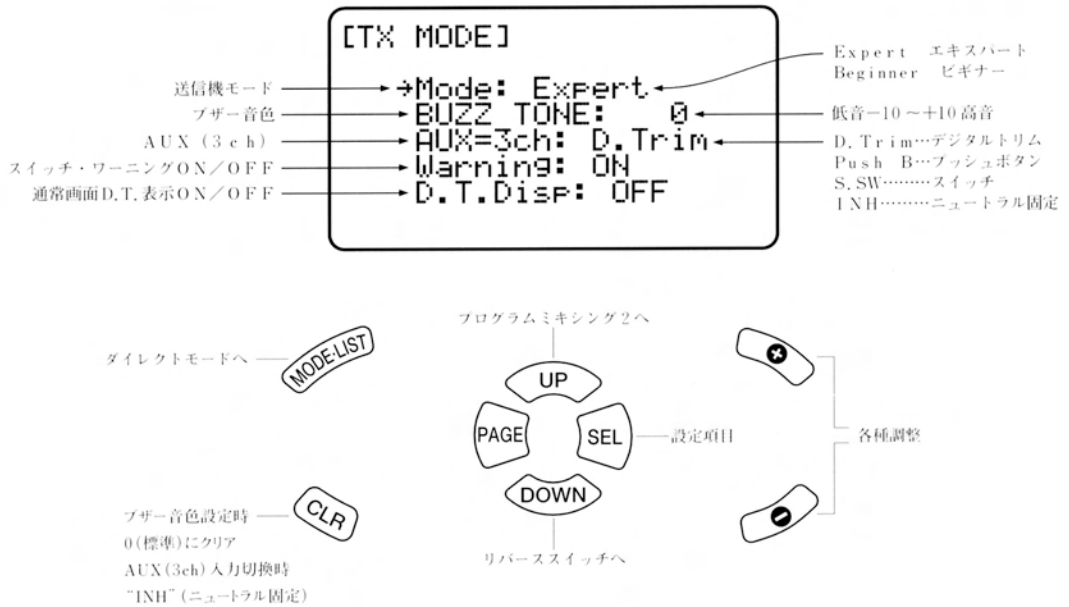
■オフセット(ミキシングの基準点の移動)設定

マスターチャンネルの任意の位置をミキシングの基準点とする事が出来ます。これは、ある位置を基準にミキシングをかけるような事が可能になります。
マスターチャンネルを任意の位置とし、(CLR)キーによりその位置がメモリーされます。数値として、ニュートラルからの移動量（オフセット量＝総舵角の中心よりのずれの量）が表示されます。そして、その位置（基準点）でのミキシング量は、ゼロとなります。





22 送信機モード<TX MODE>　（システムモード）



■送信機モード

ビギナーに、より扱い易い送信機とする時は、"Beginner"に設定して下さい。この取扱説明書の各機能説明表題の右端に[E]表示のある機能を全てスキップし、必要最低限の機能のみの送信機となります。

■ブザー音色

フィールドで、送信機のクリック音やアラーム音を、聞き分け易いように、音色を、高低20段階に調整できます。0が、標準値となっています。

■AUX（3ch）入力切換

AUX（3ch）の入力を、デジタル・トリム、スイッチ、プッシュボタンの中から自由に選択できます。"INH"は、3chの出力が、なくなるのではなく、ニュートラル固定の出力となります。

なお、ここでの設定を変えた場合、ファンクションセレクト、トリムレート（システムモード）の設定にも、影響しますので、ご注意下さい。

■スイッチワーニング

電源投入時、アイドルアップスイッチやドライブモードスイッチが前回使用時の状態と異なる（モデル切換時も含む）場合、エンジン回転の急な上昇等による事故を防止するため、アラーム音と共に、入っているスイッチのワーニングメッセージが表示されます。この機能が、不要な場合は、ここでの設定をOFF（オフ）にして下さい。

■デジタルトリム表示

電源投入時の通常画面（送信機電圧等の表示が出る画面）に、ステアリングトリム、スロットルトリム、ステアリングデュアルレートの各ポジション表示を行うかどうかの設定です。

初期状態では、オフ（表示無し）に設定されています。表示を出す場合は、ここでの設定をオンにして下さい。

L.S.T（リミット・ストローク・トリム）による動作

デジタルトリム動作は各チャンネルがニュートラルで最大動作となりフル操作時トリムの影響がゼロとなります。
これより、左右舵角調整で決められた最大舵角は、デジタルトリム位置によって変化しません。

このトリム動作の利点は、リンケーンがデジタルトリムの位置により、フル動作時に無理がかかる心配がなく、調整で決められた最大舵角が、影響されないことです。

R-1 DATA SHEET

MODEL NO.____

MODEL NAME _____
MODULATION PPM • SPCM • ZPCM
TX MODE Expert • Beginner

	STEERING	THROTTLE	AUX(3ch)
REVERSE SW	NORM • REV	NORM • REV	NORM • REV
TRAVEL ADJUST	L %	H %	+ %
	R %	L %	− %
SUB TRIM			
FAIL SAFE			
TRIM RATE			

		DRIVE MODE	EXP	N/L	1/3	2	3/1	H/N
THRO CURVE	Forward	0	OFF•ON	%	%	%	%	%
		1	OFF•ON	%	%	%	%	%
	Brake	0	OFF•ON	%	%	%	%	%
		1	OFF•ON	%	%	%	%	%

		DRIVE MODE	Pnt.	Low	Hi
SPEED ADJUST	ST.Turn	0		INH•	INH•
		1		INH•	INH•
	ST.Return	0		INH•	INH•
		1		INH•	INH•
	TH.Turn	0		INH•	INH•
		1		INH•	INH•

		DRIVE MODE	RATE
STEERING	EXP	0	%
		1	%
	D/R	0	%
		1	%

THRO HOLD	F•B

QUICK TH.	Forward	%
	Brake	%

A.B.S.	Swing
	Pattern
	Delay INH•
	SW
	Start B %
	ST.mix OFF• ± %

IDLE UP	F•B

		CHANNEL	SW	+POS	-POS	OFFSET
PROGRAM MIX	1	→		%	%	
	2	→		%	%	

TOTAL TIME: ' "	ALARM

LAP TIME LIST		Best: ' "	
1	' "	51	' "
2	' "	52	' "
3	' "	53	' "
4	' "	54	' "
5	' "	55	' "
6	' "	56	' "
7	' "	57	' "
8	' "	58	' "
9	' "	59	' "
10	' "	60	' "
11	' "	61	' "
12	' "	62	' "
13	' "	63	' "
14	' "	64	' "
15	' "	65	' "
16	' "	66	' "
17	' "	67	' "
18	' "	68	' "
19	' "	69	' "
20	' "	70	' "
21	' "	71	' "
22	' "	72	' "
23	' "	73	' "
24	' "	74	' "
25	' "	75	' "
26	' "	76	' "
27	' "	77	' "
28	' "	78	' "
29	' "	79	' "
30	' "	80	' "
31	' "	81	' "
32	' "	82	' "
33	' "	83	' "
34	' "	84	' "
35	' "	85	' "
36	' "	86	' "
37	' "	87	' "
38	' "	88	' "
39	' "	89	' "
40	' "	90	' "
41	' "	91	' "
42	' "	92	' "
43	' "	93	' "
44	' "	94	' "
45	' "	95	' "
46	' "	96	' "
47	' "	97	' "
48	' "	98	' "
49	' "	99	' "
50	' "	100	' "

※コピーして、御利用下さい。

10 修理アフターサービスについて

■保証書をよくお読み下さい。

保証期間内に正常な御使用において故障した場合にのみ無償で修理します。正常な御使用以外の場合（操作ミスによる堕落、使用上の誤り等に起因するもの）や保証期間外の場合は有償修理となります。なお、損傷の程度によっては修理不能の場合もあります。

保証の範囲といたしましては、プロポセットのみとしそれ以外のものは対象外とさせて頂きます。

尚、原則としてアフターサービス等での製品の送料はお客様負担とさせて頂きます。

■修理を依頼されるときは修理依頼カードに下記を記入の上、状況を詳しく書き、また特にご希望されることがありましたら、特記事項欄に書き入れて直接、当社まで小包でお送り下さい。

住所欄には郵便番号、電話番号も忘れずに記入して下さい。

お名前は　フリガナをして下さい。

宛　先　〒577-8790　東大阪市永和2−2−12

日本遠隔制御株式会社　ラジコンサービス課

TEL（06）732−0200（代）

■修理代金の御案内は返送の際に同封させて頂きます。修理が到着後、現金書留等の方法で御送金下さい。

修理は当社技術員が責任をもって致します。

尚、修理サービスは、お客様の荷物を受け付けた後、当社内で開梱、各部門別に修理、検査し、最後に組合せテストを行い返送させていただきます。以上の様に一定の流れにて作業致しますので、できる限り修理品については不良と思われるもの以外は送らないようお願いいたします。

例、スイッチハーネス　充電器　電池　リードハーネス等他の不良内容とは全く関係のないもの

また、修理品をお送り頂く時に、アルミケース等のトランスミッターケースを使用しますとケース本体に傷が付く事もあります。

また、各製品の内部システムの保護のためにもできる限り、購入時の発泡スチロール箱等のクッション材を御使用の上、梱包し御返送下さい。

※修理は約10日間位で完了いたしますが製品の性質上、多少長くかかる場合もありますので御了承願いま

オプショナルパーツ

品　名	価　格	品　名	価　格
受信機FM　R200　27MHz	10,000円	FETアンプ　バック付　NEA−400BL	9,000円
受信機FM　R200　40MHz	10,000円	FETアンプ　NEA−750	10,000円
受信機SPCM　R330S　27MHz	13,000円	高周波FETアンプ　バック付　ESC−500B	14,800円
受信機SPCM　R330S　40MHz	13,000円	高周波FETアンプ　NEA−411HF	19,800円
TXモジュール　NET−J27P　27MHz	7,000円	サーボ　1／12レーシング用　NES−3125	9,000円
TXモジュール　NET−J40P　40MHz	10,000円	サーボ　電動カー用　NES−2855	13,000円
FM　クリスタルセット　27MHz(01〜12)	各2,500円	サーボ　エンジンカー用　NES−2825	13,000円
FM　クリスタルセット　40MHz(61〜75)	各2,500円	スイッチハーネス　S	700円
TX　ニッカド電池　8N1100	7,000円	スイッチハーネス　C(充電リード付)	1,000円
RX　ニッカド電池　5N600	4,000円	D.S.Cコード　AL(R−1,X−756用)	1,000円
RX　ニッカド電池　5N600T(偏型)	4,000円	Yハーネス　SS　※R200のD.S.Cコード接続に使用	1,200円
充電器　NEC−125(RX　6.0V)	3,000円		

品　名	受信機	サーボ又はアンプ	RXニッカド	その他
R−1　TRF	R200			ホーンセット、 アブソーバーゴム、ハトメ、 サーボ取付ビス、バンドリボン、 スイッチハーネスC(GPSのみ)、 取扱説明書(保証書)
R−1　TRS	R330S			
R−1　EPF	R200	NES−2855 NEA−411HF		
R−1　GPS	R330S	NES−2825×2	5N600 NEC−125付	

日本遠隔制御株式会社 〒577-8790 東大阪市永和2丁目2-12 TEL.06(732)0200(代)

（本仕様及びマニュアルの内容について、予告なく変更修正する場合があります。）